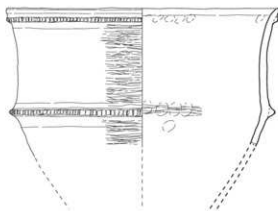


# 大分市埋蔵文化財調査概要報告2011

平成22年度版



馬場条里跡第1次調査SX009出土土器

大分市教育委員会

## 序 文

本書は、平成 22 年度に大分市教育委員会が実施いたしました埋蔵文化財発掘調査と関連事業の概要を収録したものであります。

大友氏遺跡におきましては、昨年度に引き続き大友氏館跡と「御蔵場」推定地の確認調査を実施いたしました。この調査により、「御蔵場」推定地の外郭施設と考えられます遺構や掘立柱建物跡を確認することができました。前年度の調査成果と合わせ、大友氏館周辺の都市景観を考える上で重要な成果となりました。

また、本書には 5 地点の小規模発掘調査成果を正式報告として収録しております。中でも、大分市東部の馬場地区に所在する馬場条里跡では、弥生時代前期の土器がまとまって出土しました。市東部地域における初期稲作農耕文化の様子を窺い知ることができる重要な発見といえます。

平成 22 年度は文化財の普及・活用について、市民との協働を始めた年度でもあります。これからの大友氏遺跡の整備・活用・管理等について、行政とともに活動していただける市民組織の必要性を強く感じ、ボランティアを募りましたところ、100 名を超える個人・団体に応募をいただきました。平成 23 年 1 月に「おおいた応援隊 大友歴史保存会」と称する組織として正式に発足され、大友氏遺跡の普及・啓発を目的に様々な活動が行われております。また、開館 3 年目となる大友氏遺跡体験学習館では、体験学習や各種イベントの充実に取り組んでおり、家族連れや児童、生徒の来館が昨年度以上に増えてまいりました。

これからも、市民の皆様のご意見をいただきながら、史跡の保護、保存ならびに活用を進めてまいりたいと存じます。

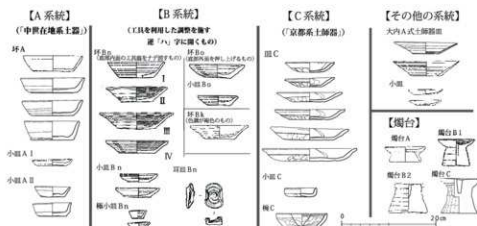
最後になりましたが、本書が市民の皆様にも広く活用されますよう祈念いたしますとともに、本市文化財行政に対しましても、より一層のご理解とご協力をお願い申し上げます。

平成 23 年 12 月 28 日

大分市教育委員会 教育長 足立一馬

## 例 言

1. 本書は、大分市域において大分市教育委員会が平成 22 年 4 月 1 日～平成 23 年 3 月 31 日の間に行った埋蔵文化財に関する発掘調査およびこれに関連する事業の内容についてまとめた概要報告書である。
2. 平成 22 年度における調査地点は、第 2 図および第 1 表に示している。
3. 本書の執筆は、担当者が分担して行い、文末に執筆者名を記している。
4. 第 5 章の受贈図書一覧は、平成 22 年 4 月 1 日～平成 23 年 3 月 31 日の間に大分市教育委員会文化財課に受贈された書籍等を掲載した。なお、受贈図書一覧の作成は、石川ゆかりによる。
5. 本書に掲載された遺跡調査の資料整理は、調査担当者をはじめ、下記の大分市教育委員会嘱託職員が行ったものである。神田智美、奥村義貴、羽田野裕之、廣瀬育子、松本晴美、小野千恵美、佐藤孝則、佐藤麻理子、佐藤良子、倉増美智代
6. 本書に掲載した本調査報告の 5 地点中、中世大友府内町跡第 94 次の掘削埋戻作業においては、大分市教育委員会文化財課の委託を受け九州文化財総合研究所が行った。
7. 本書に用いた方位はすべて座標北（G.N.）である。掲載図中の座標は、下部遺跡群第 147 次・中世大友府内町跡第 94 次を除き世界測地系の平面直角座標 2 系の X・Y 座標を基点として表記している。
8. 本文中に掲載した現場写真等は、各調査担当者が撮影したものである。
9. 本書の編集・構成は、松本晴美、佐藤道文、長直信および各調査担当者が行った。
10. 出土遺物および調査の記録・資料は大分市教育委員会文化財資料室に保管している。
11. 大友氏館跡・中世大友府内町跡で用いた出土遺物の分類及び年代観は以下の図及び文献を参考にしている。



陶器分類：大分市教育委員会 2000『大分県史 X V - 陶器分類編 - 1』小野正敏 1982『15～16 世紀の器付類・器の分類と年代』『奈良陶器研究』No. 2 (染付は東西に読み替える) 上田秀夫 1982『14～16 世紀の古陶器の分類について』『奈良陶器研究』No. 2 森田隆 1982『14～16 世紀の古陶器の分類について』『奈良陶器研究』No. 2 渡部 義典 2005『畿内・近畿・中世前期の陶器 - 生産技術の継承と変遷 - 資料集』奈良県：奈良県：奈良県 2003『中世大友府内町跡出土の最古の不明焼物について』『奈良陶器研究』No. 28 五賀・土師賢士 2002『大友府内町跡出土の瓦質土器』『中世土器の分類と年代』京都府：京都府 2002『出土土器の分類・整理及び瓦質土器の分類と年代』大分市教育委員会 大内氏土師：北島大輔 2010『IX 章 大内氏の設定』大内氏土師：山口市教育委員会 在地系土師：長瀬俊 2011『豊後県内における京都市土師器の導入前後の土器の分類』『古文化研究』第 65 号 (4)

## 本文目次

|                            |    |
|----------------------------|----|
| 第 1 章 大分市教育委員会教育文化財課概要     | 1  |
| 1 沿革                       | 1  |
| 2 組織                       | 1  |
| 3 大分市教育委員会事務局組織規則 (抜粋)     | 2  |
| 第 2 章 平成 22 年度埋蔵文化財発掘調査の概要 | 3  |
| 第 3 章 主要な埋蔵文化財発掘調査概要及び調査報告 | 6  |
| ①大友氏館跡第 23・24 次調査 (概要)     | 6  |
| ②中世大友府内町跡第 89 次調査 (概要)     | 7  |
| ③中世大友府内町跡第 94 次調査 (報告)     | 9  |
| ④下郡道跡群第 147 次調査 (報告)       | 16 |
| ⑤猪野道跡第 4 次調査 (報告)          | 17 |
| ⑥葛木道跡第 6 次調査 (報告)          | 18 |
| ⑦馬場条里跡第 1 次調査 (報告)         | 24 |
| 第 4 章 平成 22 年度の教育普及活動      | 32 |
| ①大友氏道跡フェスタ 2010            | 32 |
| ②大分市文化財たより 2010 年度号の発行     | 32 |
| ③大友氏道跡体験学習館 (平成 22 年度の活動)  | 32 |
| ④大友氏道跡 PR 活動 in 大分空港       | 33 |
| ⑤大友氏道跡ボランティアの募集            | 33 |
| ⑥「楽市楽座 おもて会」の開催            | 33 |
| ⑦道跡説明会 (府内城・城下町跡第 19 次調査)  | 33 |
| 第 5 章 受贈図書目録               | 34 |

## 第1章 大分市教育委員会教育部文化財課概要

## 1. 沿革

|            |                                        |
|------------|----------------------------------------|
| 昭和51年4月1日  | 大分市教育委員会社会教育課内に文化財係を設置                 |
| 昭和59年6月28日 | 大分市教育委員会社会教育課文化財係を大分市教育委員会社会教育課文化財室に改組 |
| 平成5年4月1日   | 大分市教育委員会文化振興課文化財室に改組                   |
| 平成10年4月1日  | 大分市教育委員会生涯学習課文化財室に改組                   |
| 平成12年4月1日  | 大分市教育委員会文化財課に改組                        |
| 平成13年4月1日  | 大分市教育委員会教育総務部文化財課に改組                   |
| 平成21年4月1日  | 大分市教育委員会教育部文化財課に改組                     |

## 2. 組織

教育部参事兼課長 玉永光洋

大分市歴史資料館

参事 福田誠一 塔鼻光司（平成23年5月～）

参事兼館長 讃岐和夫

主幹兼副館長 久多羅岐明 武富雅宣

管理普及担当班

主査 秋吉えつ子

主幹（班長）坪根伸也（平成23年4月～）

指導主事 後藤真治

指導主事 植木和美 小野富広

岩本浩典（平成23年4月～）

専門員 河野史郎

専門員 中西武尚

主査 神崎小由美 栗田博之

主任 金丸英治（平成23年4月～）

主任 永松正大 竹中智美

嘱託職員 佐藤孝則 羽田野裕之 廣瀬育子 仲町憲治

研修教諭 高野宏行（平成23年4月～）

臨時職員 井上 琴（平成23年4月～6月）

嘱託職員 古瀬美鈴 大平直子

玉井 絢（平成23年7月～）

細井雅希 阿南希依

其田満男 阿部和広

神志那潔

史跡整備担当班

主査（班長）筒井和信

齊藤慎悟 渡辺政雄

臨時職員 小野利恵（～平成23年9月）

藤澤信之（平成23年4月～）

中山琴葉（平成23年10月～）

専門員 高島 豊

主任 五十川雄也 宮崎 勲 山上洋二郎 麻生重徳

主事 石川ゆかり

嘱託職員 佐藤良子 倉増美智代

埋蔵文化財担当班

専門員（班長）池邊千太郎

専門員 塩地潤一

主任 佐藤道文

主事 長 直信 松浦憲治 朝川貴俊

嘱託職員 神田智美 奥村義貴 松木晴美

小野千恵美

小野知恵 小野綾夏（平成23年4月～）

佐藤麻理子 永井美香（平成23年4月～）

## 3. 大分市教育委員会事務局組織規則(抜粋)

## 文化財課

- (1)文化財の調査、保存及び整備に関すること。
- (2)文化財保護思想の普及啓発に関すること。
- (3)文化財保護審議会に関すること。
- (4)歴史資料館、海部古墳資料館、毛利空榮記念館、池見家住宅その他文化財施設の管理に関すること。

## 1. 大分市文化財保護審議会

大分市文化財保護審議会委員(平成22年4月1日現在)

| 氏名     | 勤務先             | 担当   |
|--------|-----------------|------|
| 北野 隆   | 熊本大学・名誉教授(会長)   | 建築   |
| 豊田 寛三  | 別府大学学長(副会長)     | 近世   |
| 下村 智   | 別府大学・教授         | 考古埋蔵 |
| 西別府 元日 | 広島大学・教授         | 古代   |
| 鹿毛 敏夫  | 新居浜工業高等専門学校・准教授 | 中世   |
| 宗像 健一  | 大分市美術館・顧問       | 美術   |
| 吉田 稔   | 大分生物談話会会長       | 植物   |
| 渡辺 文雄  | 別府大学・教授         | 工芸   |
| 段上 達雄  | 別府大学・教授         | 民俗   |
| 渡邊 ひろ美 | 大分県立大分舞鶴高等学校・教諭 | 動物   |

大分市文化財保護審議会条例(平成11年12月15日条例第42号)

## (設置)

第1条 文化財保護法(昭和25年法律第214号)第190条第1項の規程に基づき、大分市教育委員会(以下「教育委員会」という。)に大分市文化財保護審議会(以下「審議会」という)を置く。(平17条例13・一部改正)

## (組織)

第2条 審議会は、委員10人以内をもって組織し、学識経験者のうちから教育委員会が委嘱する。

## (任期)

第3条 委員の任期は、2年とする。ただし、補欠の委員の任期は、前任者の在任期間とする。

## (会長及び副会長)

第4条 審議会に会長及び副会長1人を置き、委員の互選により選出する。

2 会長は、審議会を代表し、会務を総括する。

3 副会長は、会長を補佐し、会長に事故があるとき、又は会長が欠けたときは、その職務を代理する。

## (会議)

第5条 審議会の会議(以下「会議」という。)は会長が召集し、会長がその議長となる。

2 会議は、委員の過半数が出席しなければ、これを開くことができない。

3 会議の議事は、出席議員の過半数でこれを決し、可否同数のときは、議長の決するところによる。

4 会長は、必要があると認めるときは、会議に委員以外の者の出席を求め、説明、又は意見を聴くことができる。

## (部会)

第6条 審議会に、教育委員会規則の定めるところにより、部会を置くことができる。

## (庶務)

第7条 審議会の庶務は、教育委員会事務局において処理する。

## (委任)

第8条 この条例に定めるもののほか、審議会の運営に関し必要な事項は、会長が定める。

## 附則

## (施行期日)

1 この条例は、平成12年4月1日から施行する。

(大分市文化財調査委員会条例の廃止)

2 大分市文化財調査委員会条例(昭和51年大分市条例第4号)は廃止する。

## 附則(平成17年条例第13号)

この条例は、平成17年4月1日から施行する。

## 第2章 平成22年度埋蔵文化財発掘調査の概要

平成22年度に、大分市教育委員会が実施した発掘調査（本調査）は25件、合計の調査面積は16105.9㎡である。このうち、大分市の公共事業によるものが13件13259.7㎡、国庫補助による市内遺跡確認調査が5件1643.3㎡、民間開発に伴う事業が7件1202.9㎡であった。市内の地域区分でみると、横尾遺跡143次～



第1図 大分市内地域区分図

146次、猪野遺跡4次、葛木遺跡6次、米竹遺跡4・5・6次が鶴崎地区（地域E）、城原・里遺跡13次、丹生川坂ノ市条里跡13次が坂ノ市地区（地域G）、馬場条里跡1次が佐賀閑地区（地域I）である他はすべて大分地区（地域A）であった。

一方、開発事業に伴う試掘・確認調査・立会調査は119件であった。試掘・確認調査が32件、立会調査が87件である。試掘・確認調査では8件40%が公共事業に伴うものである。立会調査については、大半が個人住宅の浄化槽設置に伴う立会調査である。地域別件数では、開発件数の集中を反映して大分地区（地域A）が45

第1表 平成22年度発掘調査一覧

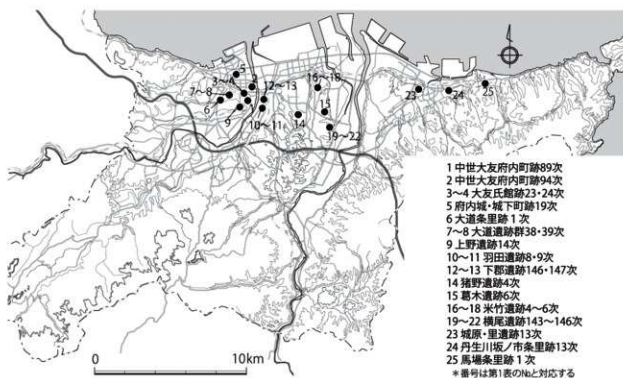
| NO. | 調査名          | 所在地/地区        | 調査種別 | 調査面積   | 調査期間          | 調査内容                                   | 報告予定              |
|-----|--------------|---------------|------|--------|---------------|----------------------------------------|-------------------|
| 1   | 中分大政府内跡98次   | 六分北町<br>A     | 市・県道 | 911.5  | 100506～0615   | 縄文時代の土器・土質調査・縄文時代の土器・土質調査・縄文時代の土器・土質調査 | 平成22年度<br>(概算)    |
| 2   | 中分大政府内跡94次   | 鶴崎2丁目<br>A    | 個人住宅 | 89     | 100819～0913   | 18世紀前期の土器・土質調査                         | 本書所収              |
| 3   | 大分氏館跡23次     | 鶴崎3丁目<br>A    | 市    | 534.8  | 100813～1110   | 18世紀前期の土器・土質調査                         | 平成22～23年度<br>(概算) |
| 4   | 大分氏館跡24次     | 鶴崎3丁目<br>A    | 市    | 28     | 110111～0121   | 18世紀前期の土器・土質調査                         | 平成23年度<br>(概算)    |
| 5   | 市内城・城下跡18次   | 河内町<br>A      | 市道   | 729.3  | 101106～110326 | 縄文時代の土器・土質調査・縄文時代の土器・土質調査・縄文時代の土器・土質調査 | 平成23年度            |
| 6   | 大分県道11次      | 大分道2丁目<br>A   | 市道   | 1859.4 | 100614～0805   | 古墳時代の土器・土質調査                           | 平成23年度            |
| 7   | 大分道跡跡28次     | 大分道1丁目<br>A   | 市    | 837    | 100702～0915   | 古墳時代の土器・土質調査                           | 平成24年度<br>以降      |
| 8   | 大分道跡跡29次     | 大分道2丁目<br>A   | 市    | 1438.5 | 100702～0915   | 古墳時代の土器・土質調査                           | 平成24年度<br>以降      |
| 9   | 上野道跡跡14次     | 大分市・上野町<br>A  | 市道   | 131.1  | 100726～0730   | 古墳時代の土器・土質調査                           | 平成24年度            |
| 10  | 羽田道跡跡4次      | 大分市<br>A      | 市道   | 301.5  | 101024～110310 | 古墳時代の土器・土質調査                           | 平成23年度            |
| 11  | 羽田道跡跡6次      | 大分市<br>A      | 市道   | 213.8  | 101026～110310 | 古墳時代の土器・土質調査                           | 平成23年度            |
| 12  | 下野道跡跡148次    | 下野町3丁目<br>A   | 市道   | 233.9  | 100426～0525   | 古墳時代の土器・土質調査                           | 平成22年度            |
| 13  | 下野道跡跡147次    | 下野町3丁目<br>A   | 市道   | 9.8    | 101124        | 古墳時代の土器・土質調査                           | 本書所収              |
| 14  | 猪野遺跡4次       | 大分市・猪野町<br>E  | 市道   | 115    | 100518        | 古墳時代の土器・土質調査                           | 本書所収              |
| 15  | 葛木遺跡6次       | 大分市・葛木町<br>E  | 市道   | 186.1  | 110223～110331 | 古墳時代の土器・土質調査                           | 本書所収              |
| 16  | 米竹遺跡5次       | 大分市・米竹町<br>E  | 市道   | 424.6  | 101004～1029   | 古墳時代の土器・土質調査                           | 平成22年度            |
| 17  | 米竹遺跡5次       | 大分市・米竹町<br>E  | 市道   | 100.4  | 100927～1013   | 古墳時代の土器・土質調査                           | 平成22年度            |
| 18  | 米竹遺跡6次       | 大分市・米竹町<br>E  | 市道   | 197.8  | 101031～110224 | 古墳時代の土器・土質調査                           | 平成23年度            |
| 19  | 横尾遺跡143次     | 大分市・横尾町<br>E  | 市道   | 3070.7 | 100931～1029   | 古墳時代の土器・土質調査                           | 平成23年度            |
| 20  | 横尾遺跡144次     | 大分市・横尾町<br>E  | 市道   | 980.8  | 101029～110204 | 古墳時代の土器・土質調査                           | 平成24年度            |
| 21  | 横尾遺跡145次     | 大分市・横尾町<br>E  | 市道   | 579    | 101026～110204 | 古墳時代の土器・土質調査                           | 平成24年度            |
| 22  | 横尾遺跡146次     | 大分市・横尾町<br>E  | 市道   | 1188.8 | 101026～110204 | 古墳時代の土器・土質調査                           | 平成24年度            |
| 23  | 城原・里遺跡13次    | 大分市・城原町<br>G  | 市道   | 100    | 101129～1216   | 古墳時代の土器・土質調査                           | 平成22年度<br>(概算)    |
| 24  | 丹生川坂ノ市条里跡13次 | 坂ノ市町・市条町<br>G | 市道   | 1384.2 | 100802～1013   | 古墳時代の土器・土質調査                           | 平成23年度            |
| 25  | 馬場条里跡1次      | 大分市・馬場町<br>I  | 市道   | 100    | 101104～1010   | 古墳時代の土器・土質調査                           | 本書所収              |

※調査内容：公共事業調査 / 調査種別：国庫補助調査

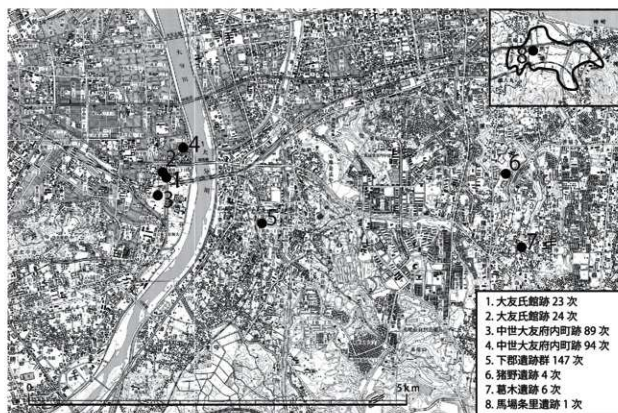
第2表 平成22年度確認調査・立会調査一覧

[illegible]

件 52%と全体の半数を、横尾区画整理地区を含んだ、中小規模の民間開発も多い鶴崎地区（地域E）は22件25%に達し、11件13%の坂ノ市地区（地域G）が続く。その他は稲田地区（地域B）で6件、大南地区（地域C）で2件、野津原地区（地域H）で1件となっている。



第2図 平成22年度発掘調査位置図（1/250,000）



第3図 本書で報告する調査の位置図（1/50,000）

### 第3章 主要な埋蔵文化財発掘調査概要及び調査報告

#### 大友氏館跡第23・24次調査概要

調査面積 534.8㎡ (23次) / 28㎡ (24次)

調査期間 10.09.13～10.11.10 (23次) 11.01.11～11.01.21 (24次)

地域 A

調査担当 長

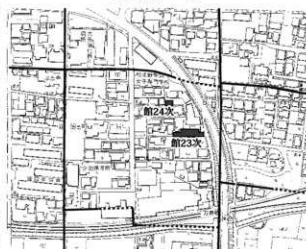
平成22年度の大友氏関連遺跡の確認調査は、大友氏館跡23・24次についておこなった。館23次調査については、館内部の様相把握を目的として中心施設から東外郭推定地付近を調査地点とし、館24次調査については、館中央北側の16世紀段階の土器廃棄土坑の分布範囲および時期の確定を目的に調査を行った。

##### 1. 館23次調査概要

館の中心建物確認地点から館の東端付近へ東西に長い調査区を設定して調査を行った。結果として、調査地点は東外郭推定ラインの約10m西にあたり、調査区の東側では最盛期の館の時期の遺構は確認できていないことから、中央東側は空閑地であった可能性がある。また、調査区西端では、館23SD090とした南北方向の溝が確認されたことから、中心建物の東側に区画溝が存在していたこととなり、館内部の景観を考える上で大きな成果となった。溝は数度に渡って掘り返されており、この部分の区画が16世紀第2四半期～16世紀第4四半期にかけて、重要な意味をもつと考えられる。調査地点の中央では、館23SX005とした、16世紀前半頃の東西17m、南北2m、深さ0.8mの規模の巨大な土坑を確認。これまでの調査のなかでも最大級の規模であり、16世紀前半頃の館内部の空間利用を考える上で重要な発見となった。中心建物の東側については館21・23次調査と面的に調査を行ってきたが、16世紀第4四半期の遺構は希薄であり、当時は基本的には空閑地であったと考えられる。文献史料の「当作年中作法日記」の記載からは、館内部には「遠侍」の建物や「大庭」があったことが記されており今回の「空閑地」という調査成果と文献史料との関連が注目される。

##### 2. 館24次調査概要

24次調査は、館の北東部に位置し、10次B区および14次調査で確認された16世紀代の廃棄土坑群の、範囲および時期確定を目的に、10次B区と14次調査区を部分的に重ねて、東西7m、南北4mのトレンチを設定し調査を行った。結果として、これまで認識されてきた館北東部のかわらけ廃棄土坑群には、16世紀中頃のもの、16世紀後半のものがあがり、廃棄空間としては16世紀中頃から継続して使用されていた点、16世紀後半ごろになると、24次調査北側から10次B区部分にかけては、かわらけ廃棄土坑群の上面に、SX010とした砂質の掘り込み状の整地を面的に行い、土地の利用が変化するが館の中心建物に近い14次調査では、継続して廃棄土坑が形成される。以上の所見をえた。(長直信)



第4図 調査位置図 (1/5,000)



第5図 23次調査航空写真 (南西より)

## 中世大友府内町跡第89次調査概要

調査面積 911.5 m<sup>2</sup>

調査期間 10.05.06～10.06.15

地 域 A

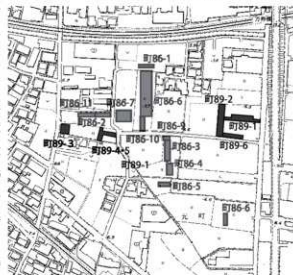
調査担当 長・松浦

推定御蔵跡の確認調査の2カ年目として昨年度の町86次に引き続き町89次調査を実施した。今回の調査では、①東外郭の確認②南外郭の確認③西外郭の確認を目的に6地点(町89-1～6)の調査区を設定し調査を行った。2カ年の調査結果として、16世紀後半～末の掘立柱建物跡や火災処理土坑、北・東・南を面する溝や積土遺構などをはじめ、15世紀頃～16世紀中頃の多様な遺構を検出した。以下では、第7図を元に、昨年度の町86次調査及び周辺の調査事例を含めて推定御蔵跡周辺の遺構変遷を述べる(第1段階～3段階の様相は第7図参照)。

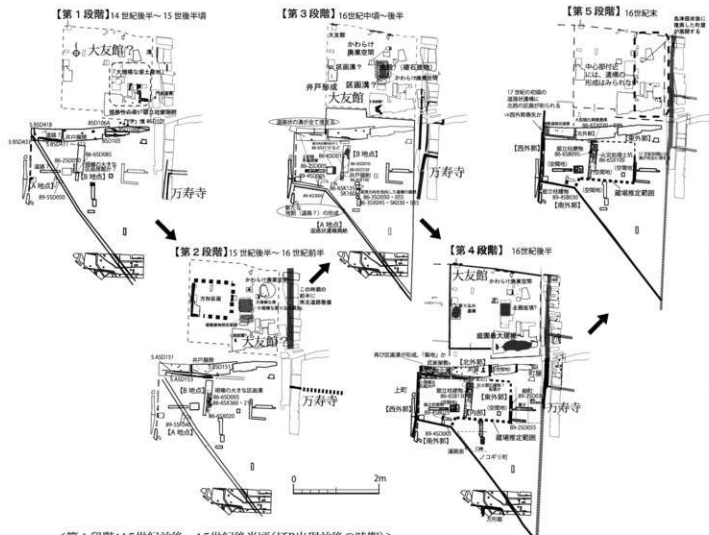
**第4段階：(16世紀後半 厚手の皿C主体の時期)** この時期は外郭が明確に整備される時期であり、四方に溝が巡る景観が復元できる。内部には、礎盤石をもつ建物遺構や壁土を用いた建物、掘立柱建物がこの時期に併存している。さらに、大型礎石を廃棄したSX030-035が次段階に形成されることから、この巨大な礎石を使用した遺構が付近に存在した可能性が高い。これらの内部に共通することは、土師器廃棄土坑が確認できない点、日用雑器類(土師質土器調や釜など)を廃棄した土坑がない点であり、井戸の規模も比較的小さいという点である。推定御蔵跡の南側(町86-3～5)のような「町屋」の様相や、武家地の様相とも異なる空間であったと考える。また、瓦の出土も皆無であったことから寺院などの施設とも考えがたく、記録や伝承もない。この段階に四方の外郭が整備され、内部には一定の「空閑地」を挟みながら掘立柱建物や土壁を使用した建物などが展開する。この周囲には町屋的な景観が広がっていたと考えられる。

**第5段階：(16世紀末～17世紀初頭 厚手の皿C・塊C主体の時期)** 前段階と同様に外郭と考えた溝状遺構に囲まれているが、この段階の中で完全に埋没し上面には複数の土坑が展開する。内部は、火災処理土坑をはじめとして、焼土の入ったビッドが多く検出され、前段階の最後に発生した火災後に形成された遺構が町86-6北側で顕著に展開する。また、第4段階の建物の建て替えと考えられる、掘方に焼土を多量に含む同一主軸をもった掘立柱建物(町86-6SB095・町89-4SB030)などが形成される。外郭の維持を含めて第4段階と同様の性格を持つ土地利用が継続していたと考えられる。

以上の調査結果から、第4・5段階では、これまでの中世大友府内町跡の調査で明らかとなっている武家地や町屋、社寺遺構などには類さない性格の遺構群が展開することがわかった。第4・5段階の遺構展開は、東西約205m、南北約85mの長方形の範囲に概ね収まり、南東部(東西約85m、南北約20m)の張り出し部を含む面積約2haの略「L」字の範囲であると考えられる。この略「L」字のエリアは、大友館の南に併設され、現状から北・西・南の一部は、1～2条の溝を伴う積土遺構により、東側はやや規模の大きな溝によって区画される。また、一定の「空閑地」と建物を含むこの内部の遺構群の特徴は、これまでの中世大友府内町跡の調査で検出された既存施設の範疇に属さないことが特徴である。こうした所見から、この範囲は大友館に接する公共空間であると理解され、特別な空間として性格付けられる可能性は極めて高い。今後は、この施設の空間構造や建物構造、さらにはいわゆる中世から近世域下町移行期における蔵場としての「場」の成立年代の問題等々を解明していく必要がある。(長直信)



第6図 調査位置図 (1/5,000)



＜第1段階：15世紀前後～15世紀後半頃（環B出現前後の時期）＞

・万寿寺南西部から北西方向に延びる道路側溝と考えられる区画溝が形成される。道路跡が【第7図 A地点（以下、同）】、なお、この区画は、北西の隅にあたる町5Aにて「T」字路を形成し、一方は推定御蔵場跡の北外郭付近へ東西方向に延びる。この東西方向の区画は、16世紀後半（5段階）に至るまで繰り返し踏襲される【C地点】。・推定御蔵場跡中央には、「L」字に曲がると想定される溝町86-GSD085が掘削される。規模やプランからみて層間的な遺構が【B地点】。

＜第2段階：15世紀後半～16世紀初頭（環B主体の時期）＞

・前段階の溝を踏襲した積土をもつ道路状遺構（町89-5SF040、町5ASD411）が展開【A地点】。・推定御蔵場跡中央では、前段階の溝（町86-GSD085）が埋まり、東側に位置をずらして再び「L」字に屈曲する溝（町86-GSD005）が掘削される。この溝の形成に前後して、環Bの多量廃棄土坑がみられるこの土師器の多量廃棄土坑の存在などから層間的な性格をもつ遺構が継続して展開した可能性が高い【B地点】。

＜第3段階：16世紀前半～中葉（環Bと新たに出現した皿C主体の時期）＞

・万寿寺南西部から北西に延びる道路の北側部分（町89-5SF040）が廃絶。町89-3-4では、積土をもつ東西溝（町89-3-4SD005）が形成され、新たな区画が形成される。北進していた道路（町89-5SF040）の廃絶に伴って、町89-3-4SD005と並行した西進する道路へと路輪が切り替わった可能性が高い。同時に、町86-2を分析していた道路の上面には整地が行われ、溝状遺構（町89-3-4SD005）が形成される。埋没時には、多量の焼土と共に墨書土器を含む皿Cが出土する【A地点】。・中央部には、前段階の遺構を埋め、部分的に整地を行う。また、調査区西側にやや位置をずらして、再び「L」字に屈曲する半町規模となる区画溝（町86-GSD010）が掘削される。これに近接した時期に、同一主軸をもつ町86-GSD015・SD150などの小規模な溝が形成されており、町86-GSD010とSD015・150は連続した方形区画となる可能性がある。これらの溝と主軸を同じくする掘立柱建物（町86-GSB090・170）はこの時期の遺構である可能性がある。なお、溝の南東方向には井戸（町86-GSE140）が掘削される【B地点】。

※第3段階は、道路の切り替えや、内部での島状の整地（町86-2SX040・町86-7茶色土・町86-6SX110）、小規模な方形区画（町86-GSD015・150）を形成するなど、前段階まで踏襲されてきた空間の利用形態が大きく変化する。

第7図 推定御蔵場跡周辺の遺構変遷（1/8,500）

## 中世大友府内町跡第94次調査報告

調査面積 69 m<sup>2</sup>  
地 域 A

調査期間 10.08.19 ~ 10.09.13  
調査担当 松浦

## 1. 調査に至る経緯

調査地点は、大分市錦町3丁目に所在し、中世大友府内町における横小路町に位置づけられる。既往の調査と明治時代の地割りラインより、大友館北辺を通る東西方向の街路とそれに沿う町屋の存在が推定される地点である。当該地において、個人住宅の建設工事が計画された。遺構に影響を与えない内容ではあるが、中世大友府内町跡の町割復原案を検証できる地点であるため、施工主の承諾を得て確認調査を実施する事とした。

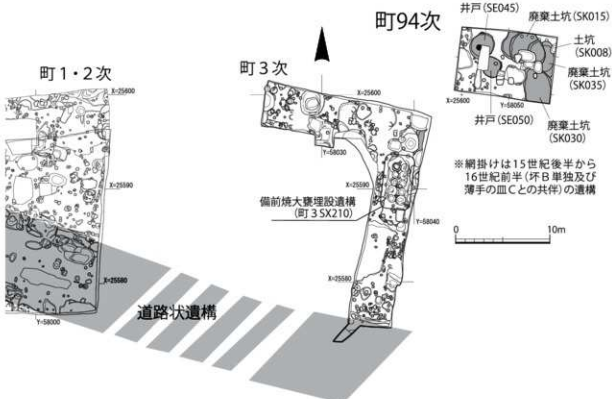
## 2. 調査概要

現在の大分市錦町周辺は府内復原想定図による横小路町にあたり、町屋が展開していたとされる。町1～3次調査においては、復原想定図を検証する形で道路面とともに横小路町での町屋跡を確認している。特に町3次調査においては、16世紀後半の備前焼大甕埋設遺構（町3SX210）や16世紀後半から末の井戸跡などを検出し、中国や東南アジア産の貿易陶磁器が多種多量に出土するなど、府内の中でも華やかな様相をみせている。

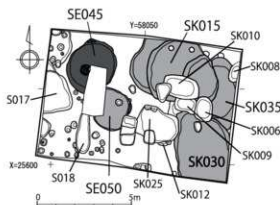
調査地は町3次調査区の北東側、大甕埋設遺構（町3SX210）を有する施設の裏手にあたる部分である。調査は、16世紀後半から末における横小路町の町屋の様相についての解明を主目的として行った。



第8図 調査位置図 (1/5,000)



第9図 町94次周辺・遺構全体図 (1/400) ※座標は旧日本測地系



第10図 全体遺構図 (1/200)

を呈する井戸枠の掘方があり、井戸枠内の下部には拳大の礫が見られる。また土層観察では井戸枠に沿って木材が腐食したような痕跡があった。出土遺物は第13図1～8で、土師器の坏Bと皿Cが共伴して出土しているほか、中国産と思われる焼締陶器や備前焼の摺鉢などが出土している。

**SE050 (第11図)** 調査区西寄りで検出した井戸跡である。不整形を呈し、直径約2.12 m、深さ1.1 m以上を測る。未完掘であるため、井戸枠の有無は不明である。出土遺物は第13図9～14で、土師器の坏Aや坏Bのほか、白磁などが出土している。

**SK010 (第12図)** 調査区東寄りで検出した廃棄土坑で、SK015を切る。不整長方形を呈し、長辺約1.90 m、短辺約1.20 m、深さ約0.33 mを測る。出土遺物は第13図15～22で、土師器皿Cのほか、緑釉陶器や獣骨片などが出土している。

**SK015 (第12図)** 調査区東寄りで検出した廃棄土坑で、SK035を切り、SK010に切られる。不整形を呈し、一部が調査区外にのびる。直径約3.58 m、深さ約0.84 mを測る。埋土は大きく褐色粘土と暗褐色粘土で、下層の2・5層を暗褐色土として取り上げている。出土遺物は第13図23～42で、うち40～42が暗褐色土出土である。土師器の坏Bと薄手の皿Cが共伴して出土しているほか、瓦器、緑釉陶器、白磁、青磁、銅製の鐙、獣骨片などが出土している。

**SK025 (第12図)** 調査区東寄りで検出した廃棄土坑で、SK012・030を切る。不整楕円形を呈し、長径約2.26 m、短径約1.62 m、深さ約0.35 mを測る。出土遺物は第13図43～47で、土師器皿Cのほか、白磁や青花などが出土している。

**SK030 (第12図)** 調査区南東隅で検出した廃棄土坑で、SK025に切れ、SK035を切る。不整楕円形を呈し、一部調査区外にのびる。長径3.5 m以上、短径約2.96 m、深さ約0.50 mを測る。埋土中の下層において多量の礫を確認しており、その出土状況から南側から廃棄されたものと推測される。出土遺物は第14図1～31で、そのうち23～31が礫中からの出土である。土師器の坏Bと皿C、大内IV A式が共伴して出土しているが、礫中からは坏Bのみの出土で、皿Cは出土していないなど、上層と下層の礫中での時期差が認められる。そのほか青花や青磁、備前焼の摺鉢、平瓦などが出土している。外面青磁碗は包含層からの混入品である。

**SK035 (第12図)** 調査区東端で検出した廃棄土坑で、SK015・030に切られる。不整楕円形を呈し、一部調査区外にのびる。長径約3.82 m、短径1.0 m以上、深さ約0.92 mを測る。出土遺物は第14図32～45及び第15図1～5で、土師器坏Bのほか、白磁や青磁、青花などが出土している。

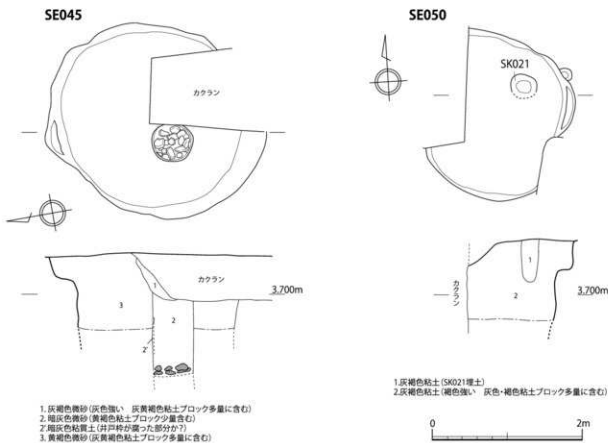
**SK006 (第10図)** 調査区東寄りで検出した土坑で、SK015・030・035を切る。不整楕円形を呈し、長径約1.30 m、短径約0.92 m、深さ約0.42 mを測る。出土遺物は第15図6～9で、土師器皿Cのほか、青磁などが出土している。

基本層序は、上から造成土、暗褐色粘質土の包含層、明赤褐色微砂となっており、明赤褐色微砂の上面で遺構を検出した。

### 3. 検出した遺構及び出土遺物

検出した遺構は、主に井戸跡、廃棄土坑がある。基本的に遺構は完掘しているが、施工主との協議において現地表面から2 m以上の掘削は行わないとしたことから、一部の遺構については完掘していない。

**SE045 (第11図)** 調査区西寄りで検出した井戸跡である。不整形を呈し、直径約2.92 m、深さ1.6 m以上を測る。未完掘であるが、中央には直径約0.5 mの円形



第11図 井戸跡実測図 (1/40)

**SK008 (第10図)** 調査区東端で検出した土坑で、SK035を切る。不整楕円形を呈し、長径約1.10m、短径0.5m以上、深さ約0.40mを測る。出土遺物は第15図10～14で、土師器皿Cや青花皿C群などが出土しているが、なかでも特筆すべきものとして、産地不明(中国産か)の黒釉陶器の完形品がある(第15図12)。この黒釉陶器は町5次調査(大分県教育庁埋蔵文化財センター2005『豊後府内1』)等で出土し、落し蓋と報告されているものと同種のものであるが、今回出土した黒釉陶器には口縁部にススが付着しており、灯明皿として使用されていたと思われる。

**SK009 (第10図)** 調査区東寄りで検出した土坑で、SK010に切られ、SK015を切る。出土遺物は第15図15で、土師質土器の燭台などが出土している。

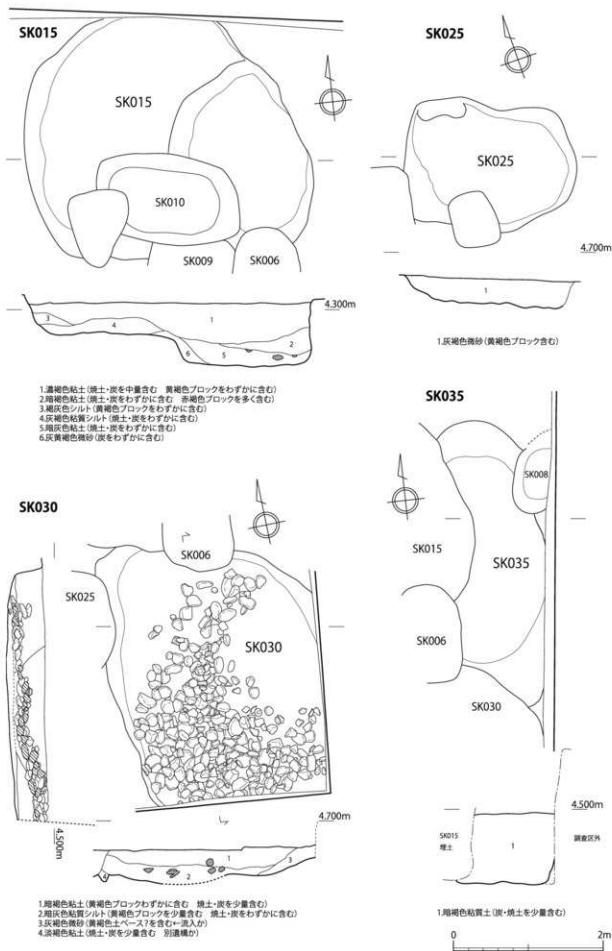
**SK012 (第10図)** 調査区東寄りで検出した土坑で、SK025に切られる。不整円形を呈し、直径約0.62m、深さ約0.30mを測る。出土遺物は第15図16・17で、土師器杯Aや弥生土器高環などが出土している。

**SK017・018 (第10図)** 調査区西端・南西寄りにある攪乱である。出土した中世遺物は第15図18～20の土師器の大内系や杯A、皿Cなどである。

**包含層(暗褐色粘質土)** 寛永通宝などの近世遺物が出土しており、近世以降の堆積である。中世遺物としては、第15図21～29の土師器の杯Bや皿C、備前焼の播磨などが出土している。

#### 4. まとめ

今回の調査では主に井戸跡と廃棄土坑を確認した。井戸跡は調査区西側でのみ検出しており、これらの井戸跡からは、杯Bのみが出土するものと杯Bと皿Cが共存して出土するものを確認しているが、16世紀後半～末の時期に相当する厚手の皿Cは確認できない。廃棄土坑は調査区東側でのみ検出しており、不整円形や不整楕円形などを呈するものが複数切り合っている状況である。廃棄土坑によって、杯Bのみが出土するもの、杯Bと皿Cが共存するもの、皿Cのみが出土するものがあり、遺物の出土状況からも各時期を通じて廃棄土坑としての土地



第12図 個別遺構実測図 (1/80)

— 13 —

0 10cm

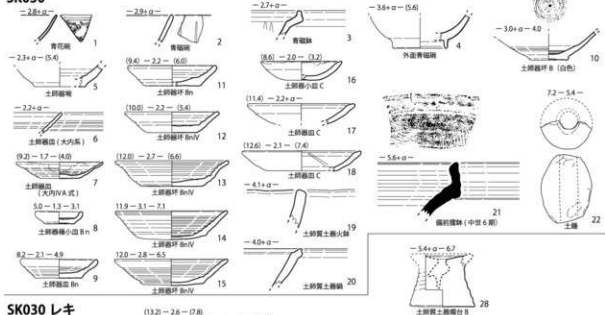




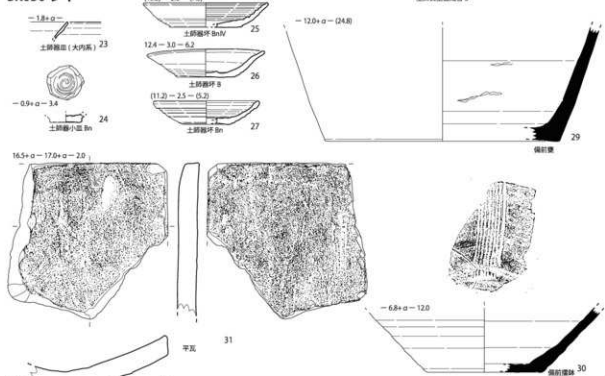

45 46 47

45 46 47

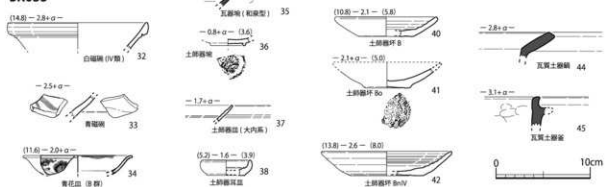
# SK030



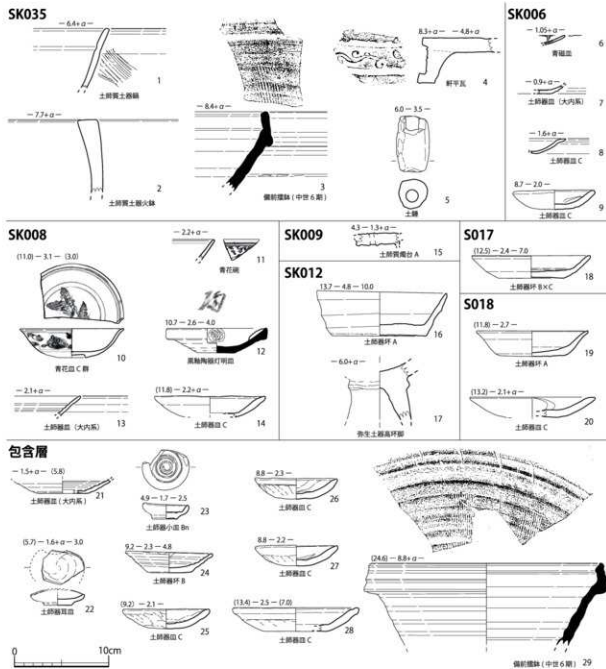
## SK030 レキ



# SK035



第 14 図 出土遺物実測図② (1/4)



第15図 出土遺物実測図③ (1/4)

利用がなされていたことが伺える。しかしながら、先の井戸跡の状況と同様に、厚手の皿Cはいずれの土坑からも出土しておらず、16世紀後半～末の時期には空閑地となっていた可能性が高い。

以上の調査成果をまとめると、①15世紀末から16世紀前半の廃棄土坑及び井戸跡を検出。②東側に廃棄土坑、西側に井戸跡と遺構の位置が明確に分かれている。③第3次調査区SX210と同時期にあたる16世紀後半以降の大型遺構は検出されなかった。このことは、当初予想していた南向きの町屋（町3次調査区）の裏手という状況とは異なる様相である。出土遺物も全体的に少ないばかりか、かわらけが主体で輸入陶磁器が僅少であるなど、町3次調査区の様相とは明らかに異なっている。また第3次調査区では15世紀後半から16世紀前半の時期の遺構が少ないことから、この2つの調査区では土地利用された時期が異なっていることは明らかである。このことは周辺における土地利用状況の変化が16世紀中頃におこったことを示していると考えられ、町割りの変化といった可能性が示唆される。そのため今後周辺での調査が行われる際には、詳細な検討が必要と思われる。（松浦憲治）

## 下郡遺跡群第 147 次調査報告

調査面積 9.8 m<sup>2</sup>

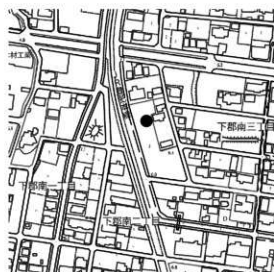
地域 A

調査期間 10.11.24

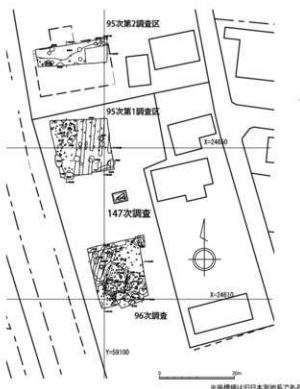
調査担当 高畠・五十川・廣瀬

今回の調査は、事務所建設に伴い実施した確認調査である。予定される建物の基礎深度が、区画整理の際の盛土内に収まるとみられたことから、浄化槽施行部分に限定して調査を行った。

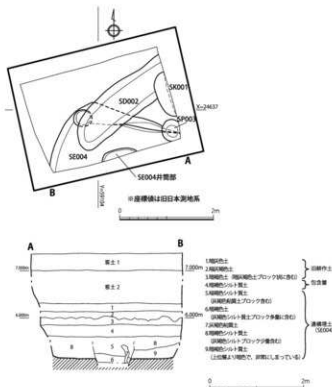
検出された遺構は、近世の溝 (SD002) 及び土坑 (SK001)、時期不明のピット (SP003)、および古代の井戸跡 (SE004) である。井戸跡 SE004 は、一部が検出されたのみであるが、隅丸方形と考えられる平面プランである。井筒部は安定地盤の下層にあるとみられる黄灰色シルト・粘質土をブロック状に多く含む土で埋積しており明確に区別できる。ウラゴメに相当する埋土から 8 世紀後半に位置づけられる須恵器環が出土した。完掘していないため遺構の時期比定に問題もあるが、平面プランからみても古代の井戸跡である可能性が高いと思われる。この他の出土遺物は大半が弥生後期とみられる土器であり、周辺に当該期の遺構が存在したことを示している。147 次調査区の北側は 95 次調査区、南側は 96 次調査区であるが、これらでは古代の遺物は一定量出土しているものの遺構については、95 次調査区で当該期の可能性のある土坑が検出されているのみである。しかし、95 次調査区の北西側に隣接する 99 次調査区では連続土坑を伴う南北方向の道路状遺構が検出されており、本調査地点西側を通っていると推定されている。従って、今回検出された井戸跡は道路状遺構と関連をもちながら展開している古代の遺構群が近隣に展開していることを示唆するものといえる。(高畠豊)



第 16 図 調査位置図 (1/5,000)



第 17 図 周辺調査位置図 (1/1,000)



第 18 図 平面図及び南壁土層図 (1/80)

## 猪野遺跡第4次調査報告

調査面積 115 m<sup>2</sup>

地域 E

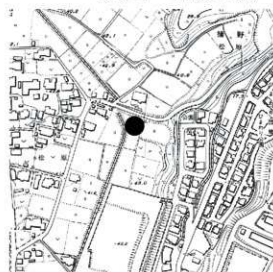
調査期間 10.05.18

調査担当 佐藤道文・廣瀬

調査地は猪野遺跡の最北地点にあたり、南には弥生・古代・中世の3時期に特筆すべき遺構が発見されている猪野新土井遺跡が位置する。

宅地造成の計画に伴い平成22年3月25日に確認調査を実施し複数のピットが検出されている。今回、大部分は盛土保存がなされたが、通路口として掘削される地点について発掘調査を行った。

調査の結果、北側においてピット群が20基程集中するものの、中央～南側にかけて遺構は皆無に近い状況であった。ピット群からは少数の遺物が出土しており、その殆どが土器破片であるが、中には弥生後期に位置づけられる甕破片が認められ、ピット群は当該期に比定される可能性が高い。(佐藤道文)



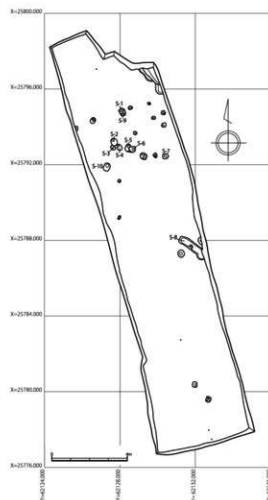
第19図 位置図 (1/5,000)



第21図 完掘状況写真(北から)



第22図 調査区全景(北西から)



第20図 遺構配置図 (1/80)

## 葛木遺跡第6次調査報告

調査面積 188.1 m<sup>2</sup>  
地 域 E

調査期間 11.02.23 ~ 11.03.31  
調査担当 五十川・長・高畠

### 1. 調査に至る経緯・立地と環境・調査概要

葛木第6次調査は、大分市大字葛木に所在し、宅地造成及び貯水槽設置に伴って行われた。2011年2月23日に貯水槽設置部分を対象とした1区を、3月25日～28日及び3月31日に宅地造成にともなう要壁部分を2区として本調査を実施した。葛木遺跡は、鶴崎台地上に位置する弥生時代を中心とする遺跡である。調査地点は、鶴崎台地南東側の丘陵突端部付近にあたる。

### 2. 調査概要

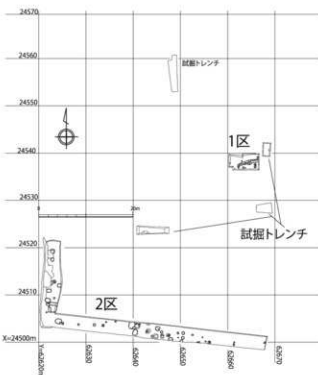
調査の結果、1区では、堅穴建物跡を1棟検出した他、2区では、弥生時代の貯蔵穴の可能性ある円形遺構や、7世紀後半頃の大型円形遺構を検出した。なお、これらの遺構は、全て黒褐色系の地山より掘り込まれるが、埋土も黒色土系であることから平面での両者の分別が困難を極め、この面での遺構検出が期間的にも物理的にも困難であったことから、黄色土系のさらに下層の地山面までを機械掘削により掘り下げた後に遺構の検出・掘り下げをおこなった(第30図参照)。

### 3. 1区の調査

#### ①主要遺構

**SH005(第25図)** 調査区南側で検出された。東西4.5m、南北2.0m以上、検出面からの最大深は、0.4mである。床面は、地山ブロックをふくむ硬くしまった茶褐色土が0.1m堆積しており、貼床と考えられる。なお、遺構の北端で貼床構築時に一部を削平される状態で、遺構プランにそって掘削された溝(幅0.4m、深さ0.2m程)を確認した。貼床プランにそって確認されることから、貼床以前の堅穴建物に付随する壁溝と考えられる。

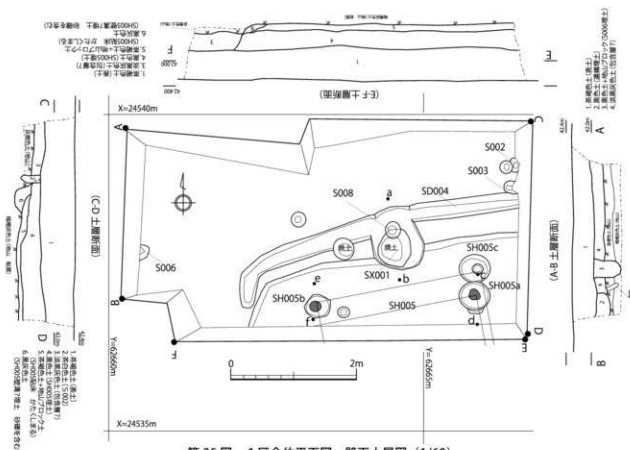
内部施設としては、主柱穴・焼土堆積土坑が検出されたが、全て貼床から掘り込まれている。主柱穴は、3基(SH005 a～c)検出された。a・bは、それぞれ柱痕直径0.15m、掘方直径0.4～0.5mである。cはaに切られて確認されたが、柱痕の確認は行っていない。完掘後の遺構配置から、bとcがセットとなる可能性が高い。aは建て替え時の主柱穴か。焼土堆積土坑はSX001とした長軸1.0m、短軸0.8mの楕円形のプラン、深さ0.06mの浅い窪みで、炭や焼土ブロックを多量に含む土が堆積する。これに切り込むようにガチガチに硬化した焼土ブロックが直径0.5mのプラン中に堆積している。土坑床面中央には直径0.25m、深さ0.1m程のビットを検出した。上述したように、本来の遺構面から0.3m程下で検出しているため、遺構の上部構造は不明だが、SH005とした堅穴建物の北側中央で検出されること、7世紀前後の遺物が出土することから、カマド



第24図 調査区平面図 (1/800)



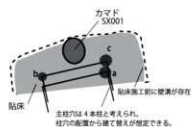
第23図 位置図 (1/5,000)



第25図 1区全体平面図・壁面土層図 (1/60)



第26図 土層図 (1/60)



第27図 SH005 復元模式図

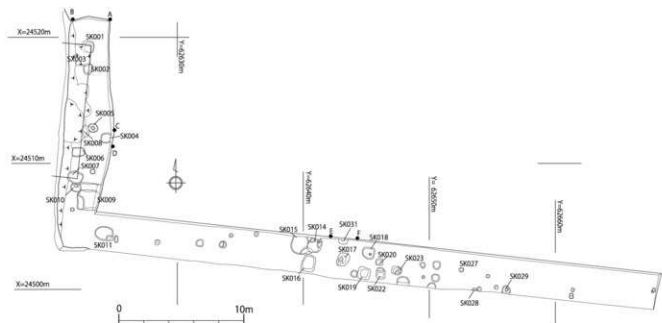


第28図 1区出土遺物実測図 (1/4)

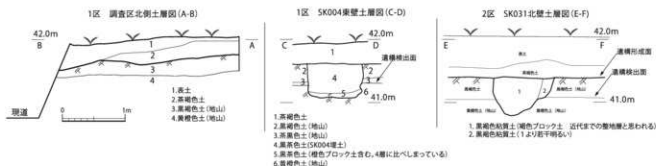
の可能性が高い。硬化した焼土ブロックとともに、土師器裏片が出土した。SH005の埋土からの遺物は極めて少ないが、床面から厚手の土師器環、埋土中からは下城式甕とともに、土師器の甕が出土した。結果として、当遺構は、床面の周囲に壁溝を巡らす時期と、これらの溝埋め、遺構全体に貼床を敷く時期とに分かれるが出土遺物から、7世紀に埋没したと考えられる。

#### ②出土遺物 (第28図)

1は土師器甕。ナデ冪となり、内面は縦方向の板ナデ冪の調整が施される。口縁部から体部まで均一の厚みをもつ。2は土師器環。口縁端部に強いナデを施す厚手作りの製品である。京都系土師器ではない。3は土師器裏。1よりもナデ冪となる。外面縦方向の工具ナデが確認できるが調整は不明瞭である。4は下城式甕の口縁部片。突帯及び口縁端部に刻目を施す。



第 29 図 2 区全体遺構図 (1/300)



第 30 図 土層図 (1/60)

#### 4. 2 区の調査

##### ①主要遺構 (第 31 図)

以下では、L 字形の調査区の南北トレンチ部分と、東西トレンチ部分に分けて記述する。

##### ・南北トレンチ部分

**SK001** 調査区中央で検出。南西部が攪乱により削平されるが 0.95 m 四方の隅丸方形に復元され、深さ 0.25 m である。

**SK002** 調査区中央で検出。北端が攪乱により削平されるが長軸 0.85 m、短軸 0.7 m の隅丸方形に復元され、深さ 0.2 m である。磨石が一点出土した。

**SK004** 調査区中央で検出。0.8 m 四方の円形遺構で、深さ 0.2 m である。埋土中より土師器甕や坏が出土した。

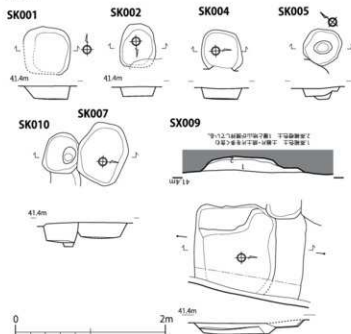
**SK005** 調査区中央で検出。長軸 0.75 m、短軸 0.7 m の円形遺構。深さは 0.15 m である。床面中央には長軸 0.35 m、短軸 0.25 m、深さ 0.07 m の小ピットを検出した。

**SK007** 調査区中央で検出。長軸 1.2 m、短軸 0.95 m の隅丸方形遺構で、深さ 0.3 m である。SK010 と接するが切り合い関係は明確ではない。埋土中より弥生土器が出土した。

**SK009** 調査区南側で検出。長軸 2.2 m、短軸 1.75 m + a、深さ 0.1 ~ 0.22 m の方形プランの遺構。東側が調査区外へ延びるため正確な規模は不明であるが、広いテラスをもった遺構である。埋土は単層で、出土遺物は土器小片のみで時期、性格とも不明である。

**SK010** 調査区南側で検出。SK009 を切る遺構である。長軸 0.3 m、短軸 0.25 m、深さ 0.4 m の円形プランの遺構。床面中央よりやや北に偏った位置に直径 0.25 m、深さ 0.08 m の小ピットを検出した。

## [1区]



## [2区]



第31図 個別遺構実測図 (1/50)

## ・東西トレンチ部分

SK011 調査区西端で検出。長軸 1.5 m、短軸 1.1 m の楕円形プランの遺構で、深さ 0.08 m、東端の窪み部分は深さ 0.1 m となる。

SK014 調査区中央付近で検出。1.1 m 四方の隅丸方形プランの遺構で、深さは 0.3 m である。北側の両端が低く窪んでおりこの地点は深 0.4 m となる。SK015 に切られる遺構である。埋土中より土師器甕や環の小片が出土した。

SK015 調査区中央付近で検出。長軸 1.5 m、短軸 1.5 m 程度に復元できる円形遺構である。南側にテラスをもち、この地点は深さ 0.1 m、床面までの深さは 0.18 m である。7 世紀第 3 四半期頃の須恵器蓋や土師器残片など比較的多くの遺物が出土した。SK014 を切って形成される。埋土中よりほぼ完形の須恵器蓋や土師器の把手、残片などが出土した。

SK016 調査区中央付近で検出。長軸 1.35 m、短軸 1.05 m の隅丸方形の遺構で、深さ 0.17 m を測る。

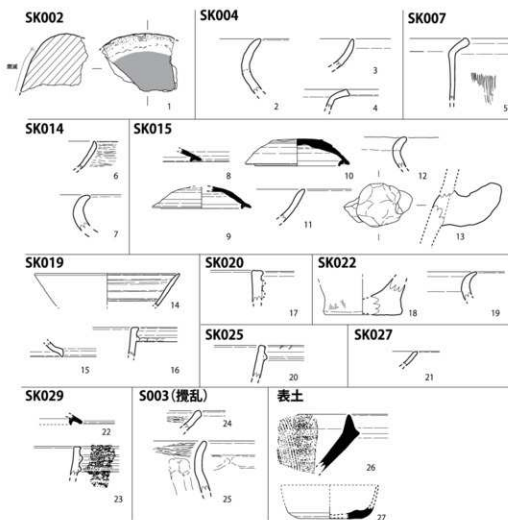
SK017 調査区中央付近で検出。長軸 1.2 m、短軸 0.9 m の楕円形プランの遺構で、西側へ向かって階段状に掘り下がる。最も深いところで深さ 0.4 m を測る。

SK018 調査区中央付近で検出。長軸 1.0 m、短軸 0.95 m の略方形遺構で深さ 0.3 m である。床面中央付近に直径 0.2 m、深さ 0.1 m の小ピットが確認できる。

SK019 調査区中央付近で検出。直径 0.55 m の円形遺構で深さ 0.14 m を測る。SK020 と接するが切り合い関係は不明である。埋土中より弥生土器や土師器環が出土した。

SK020 調査区中央付近で検出。長軸 1.0 m、短軸 0.95 m、深さ 0.2 m を測る方形遺構。弥生土器残片が出土。

SK022 調査区中央付近で検出。長軸 0.9 m、短軸 0.7 m の隅丸方形遺構。北側に深さ 0.1 m 程度のテラスをもち、床面



第32図 2区出土遺物実測図(1/4)

小片と弥生土器甕片が出土した。

## ②出土遺物(第32図)

1は安山岩製の磨石。扁平な円形の石材の中央付近(図面トーン部分)が磨滅している。重量370g。2はナデ肩となる土師器の甕。3は土師器の埴。4は弥生土器甕の口縁部片で、弥生中期～後期の所産か。5は弥生中期後半から後期の東北部九州形の甕の口縁部。6は土師器埴で外面にやや粗い横方向のミガキが施される。7は土師器甕の口縁部片で2と同様、ナデ肩になるタイプの甕。8～10は須恵器蓋。8は口縁部片で口径は不明だが小型の製品か。天井部には回転ヘラケズリを施す。9はかえりが口縁部からややとびでる形状の蓋。天井部には回転ヘラケズリを施す。現存部からは撮みの有無は不明である。10も9同様かえりが口縁部よりとびでる形状の蓋である。天井部外面はヘラ切り離し後粗いナデ調整を行うのみで回転ヘラケズリは施さない。8・9に比べて胎土が粗く成形もやや粗い。天井部には重ね焼きの際に敷いた藁が付着している。11は土師器埴の口縁部片。口縁部内面はやや面取りした形状となる。12は土師器甕の口縁部。粘土紐接合痕が明確に残る。13は甕などに付属する土師器の把手。14は土師器の埴で、内面には横方向の回転ヘラミガキ調整を行う。8世紀後半～9世紀の遺物。15は土師器蓋で口縁部をやや下方に折り曲げる。16・17は下城式甕の口縁部片。17は二条突帯が剥離している。18は弥生土器甕の底部片。19は土師器甕の口縁部片。7や12と同じタイプのものである。20は下城式甕の口縁部片。21は土師器埴ないし埴の口縁部片。8～9世紀のものか。22は須恵器蓋の口縁部片。23は下城式甕で口縁部部に二条突帯をもつ。24は土師器皿ないし杯の口縁部片。端部は玉縁状にやや肥厚する。内面にはミガキが確認できる。25は土師器甕で、体部内外面はユビオサエやナデを施し、口縁部内面

の深さは0.3mである。弥生土器甕の底部片と土師器甕の小片が出土した。

SK023 調査区中央付近で検出。長軸0.8m、短軸0.7mの楕円形遺構。2段のテラスをもつが最も深いところで深さ0.4mである。

SK029 調査区中央付近で検出。長軸0.65m、短軸0.55m + αとなる遺構。南側が調査区外へ延びるが、直径0.65mの円形プランの遺構に復元できる。深さは0.08mを測る。床面では直径0.26mの小ピットが検出され、この部分は深さ0.15mと浅い。埋土中より須恵器蓋

は横方向のハケを施す。24・25はSX003とした現代の攪乱からの出土遺物であるが、この攪乱はSK001の大部分を削平していることからこれらの遺物がSX001に帰属していた可能性がある。26は備前焼播鉢で、口縁端部は断面三角形に肥厚している。中世4期頃の製品か。27は須恵器の坏底部片と考えられる破片で、9や10などの小型の蓋と組み合わせるタイプの製品。

#### 5. まとめと今後の課題

今回の調査では、7世紀頃の竪穴建物や土坑群、9世紀前後の遺物の出土も確認され当該期の遺構が面的に展開することが分かった。鶴崎台地上の遺跡はこれまでの調査事例から猪野新土井遺跡や地蔵原遺跡を除き、弥生時代の遺跡が広く展開するイメージが強かったが、古代の遺構も面的に広がっているようであり、特に台地上の7世紀代の遺構・遺跡の性格及び遺構展開範囲については今後の小規模な調査の中でも重要である。

2区で検出した遺構は、直径1.0m前後の円形もしくは隅丸方形の土坑が主体であった。当初これらの遺構から弥生土器片が出土していたため、当該期の貯蔵穴と捉えていたが、調査を進める中で須恵器や土師器の裏・把手が出土し、弥生時代までは廻らない古代の遺構が存在することが判明した。しかしながら弥生土器のみが出土する遺構と6・7世紀代の土師器や須恵器が出土する遺構とで構造上の差異はなく、センターピットをもつもの、テラスを設けるような段掘りを行うもの、断面台形状のもの、円形プラン・方形プランなど出土遺物と遺構形状に規則性はない。また、2区SK015を除いて遺構からの出土遺物は希薄であり本来の帰属時期を明らかにすることは難しい。したがって、弥生土器のみが出土した遺構も7世紀に下る可能性があるほか、2区SK019のように9世紀まで下る遺構も存在する。遺構配置からは2区の南北トレンチで検出したSK001・002・008・006など一部攪乱を挟むが直線的に並んでおり、掘立柱建物となる可能性もあるが(第29図)断定できない。よって、現状では弥生時代・古墳時代・古代と時期を異にする土坑群と7世紀頃の竪穴建物が展開するエリアを確認したという評価に留まらざるをえないが、今後付近の調査においても出土遺物が希薄な場合の遺構の帰属時期については十分注意が必要である。(長直信)



第33図 1区SH005完掘状況(北西より)



第34図 2区SK031及び北壁土層堆積状況(南より)



第35図 2区南北トレンチ部分掘り下げ状況(北より)

## 馬場条里跡第1次調査報告

調査面積 100 m<sup>2</sup>

調査期間 10.11.08 ~ 10.10.10

地域 I

調査担当 高島

## 1. 調査に至る経緯・立地と環境・調査概要

馬場条里跡第1次調査は、大分市大字馬場字横枕 656-1・655-1 に所在する。今回の調査は、水道ポンプ場建設に伴い、受水槽が設置される範囲についての確認調査である。10月26日に立会調査を実施したところ弥生時代と思われる遺構が検出されたため、11月9日・10日に改めて受水槽設置範囲について確認調査を実施した。

## 2. 調査概要

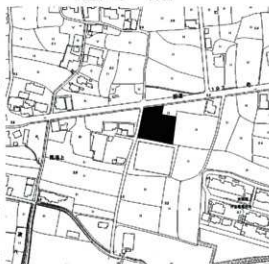
検出した遺構は、土坑・溝・性格不明遺構・ピットであるが遺構密度は極めて希薄である。また、検出時も含めて出土遺物は弥生時代前期のものに限られている。なお、遺構は地表面より0.4 m ~ 0.5 mの水田層直下で検出されるが、遺存する遺構の大部分が極めて浅いことから遺構上面は水田によって大きく削平されていると考えられる。検出標高は2.9 ~ 3.0 mである。

## ①主要遺構

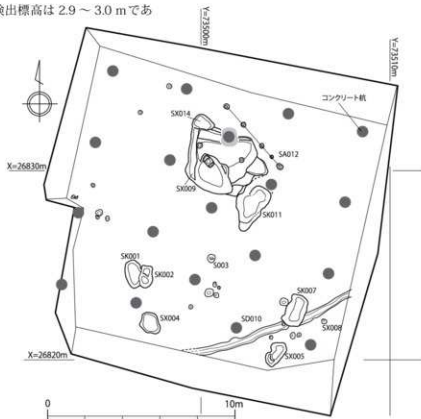
## ・柵跡

SA012(第38図) 調査区中央北側でSX009に接して検出された。柱穴5基からなる長さ4.3 mの柵状遺構である。柱穴aは直径0.35 m、深さ0.28 m、柱穴bは直径0.2 m、深さ0.16 mと小型である。柱穴c ~ eは、直径0.25 mで深さは0.25 ~ 0.3 mと比較的揃っている。柱痕の確認を怠っており、その有無は不明である。また、柱間には心々距離で柱穴a ~ eまで0.65、0.8、1.5、1.3 mと不規則ではあるが、全体に遺構が希薄な中で、同一規模のピットが直線的に並ぶことから柵の可能性を考えた。

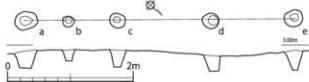
これらの柱穴からは、出土遺物が皆無なため時期が不明であるがSX009に近接し、主軸方向や距離も揃っていることから、SX009を巡観するような遺構かもしれない。



第36図 位置図 (1/5,000)



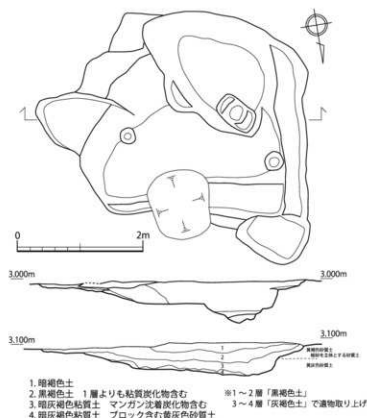
第37図 全体遺構図 (1/200)



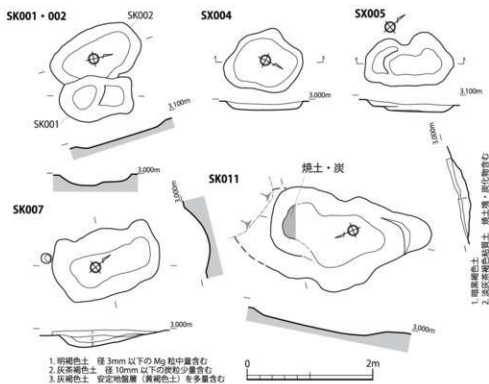
第38図 SA012個別実測図 (1/60)

## ・性格不明大型遺構

**SX009 (第39・46・47図)** 調査区中央で検出した長軸4.3m、短軸3.4mの不整楕円形で検出面からの最大深は0.65mである。断面形状は底部が凸凹し不整形を呈する。遺構中央に向けて不規則にテラスを形成しながら掘鉢状に窪んでいる。浅い部分のテラスで深さ0.15m、中段テラスで深さ0.35mを測る。SX014を切っで形成されている。検出時はSX014以外の複数の土坑が切り合っている可能性も考えられたが、土層からは掘り返しや切り合いが想定できるような不整合面はみられない。埋土は、1・2層は黒色系の土が(2層は1層よりも粘質炭化物を含んでおり黒味が強い)、3・4層は灰色系の土であり、これらの層は遺構に対して水平に堆積している。2層を前後して色調が大きく異なることから上下の層は堆積環境が異なっていると考えられる(第47図参照)。掘削に際しては、上層の1・2層を「黒褐色土」として、下層の3・4層を「灰褐色土」として遺物を取り上げている。埋土中からは多量の弥生土器片、石斧を含む石器類が出土している。上層の「黒褐色土」からは石斧(第42図3)や完形の弥生土器小型甕(第41図10)が出土したが、その他の土器類は底部、口縁部ともに破片で出土しており、また口縁部片に比べて底部片が数量的にも多いことから、割れた土器群が土と共に投棄



第39図 SX009 個別遺構実測図 (1/60)



第40図 その他の遺構個別実測図 (1/60)

された、もしくは流れ込んだと想定される。また、土器類に混じって蛇紋岩、緑泥片岩の右石のような方形の大型石材（加工痕は明瞭ではない）が各層に含まれていた（第46図参照）。この不整形な大型遺構の性格は竪穴建物の可能性も考えられたが、床面はフラットでなく跡や柱穴も認められないことから遺物を廃棄した土坑と考えられるが上述したSA012との関連も含めて具体的な性格は不明である。なお、上層・下層で遺物組成や土器型式に大きな隔たりはなく、弥生時代前期（板付ⅡB併行期）を主体とする時期に埋没した遺構と考えられる。

#### ・溝跡

**SD010（第37・22図）** 調査区南東部で検出。中央付近でSK007に切られる。幅0.2m、東西9m分を検出したが東西ともに調査区外に伸びる。直線的ではなくそれぞれ北側に向かって弧の字状に反った形状を呈す。検出面からの最大深は0.06mである。時代のわかる遺物は出土していないが、弥生前期の遺物が出土したSK007に切られることから近接した時期の区画溝か。

#### ・その他の遺構

**SK001（第40図）** 調査区南西付近で検出された。SK002に切られる遺構。長軸1.15m、短軸0.75mの楕円形で検出面からの最大深は0.16mの土坑。

**SK002（第40図）** 調査区南西付近で検出された。SK001を切る遺構。長軸1.5m、短軸0.9mの楕円形で検出面からの最大深は0.08mと極めて浅い土坑。

**SK004（第40図）** 調査区南西付近で検出された。長軸1.25m、短軸1.0mの不整形遺構で検出面からの最大深は0.14mの性格不明遺構。

**SK005（第40・45図）** 南東隅付近で検出された。長軸1.4m、短軸0.65～0.85mの不整形遺構で短軸側に浅いテラスをもつ。検出面からの最大深は0.2mである。底部を穿孔した弥生土器壺（第43図2）や遺存状態のよい甕片（第43図1）が割れた状態で出土した。遺構面の削平度合いを考えると本来は完形品であった可能性がある。

**SK007（第40図）** 調査区南東付近で検出された。SD010を切る遺構で長軸1.75m、短軸1.05m、方形を指向した土坑で検出面からの最大深は0.25mである。西部瀬戸内系の甕を含む弥生前期の遺物が出土している。

**SK008（第37図）** 調査区南東付近で検出された。直径0.3m程のピット。弥生前期の甕片が出土している。

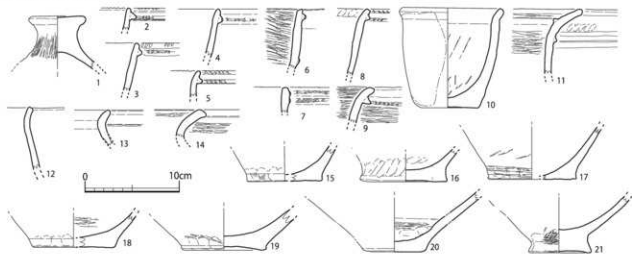
**SK011（第40図）** 調査区中央で検出。北端が攪乱により削平されるが長軸3.15m、短軸1.55mの隅丸方形に復元され、短軸側に浅いテラスをもつ。検出面からの最大深は0.21mである。埋土の層序や色調はSK009に類似しており出土遺物もほぼ同時期の遺物が出土することから、近接した時期の遺構と考えられる。なお図に示すように遺構の小口付近の床面では焼土や炭が確認されており、調査担当者は屋外炉の可能性も想定している。

#### ②出土遺物

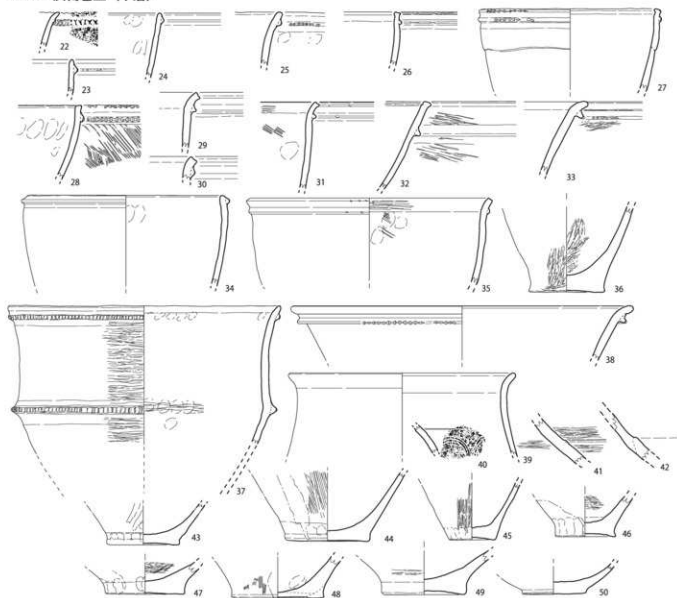
調査では弥生前期に限定して多くの土器が出土したが、そのほとんどはSK009より出土している。SK009以外の遺構から出土した遺物のなかで、実測可能な個体は全て図示しているが、SK009については各層中の全ての形式については図示しているものの、実測可能な全ての遺物を掲載しているわけではない。

**SK009 黒褐色土（上層）出土遺物（第41図1～21）** 1は弥生土器蓋。赤褐色の色調を呈し外面はハケ調整が確認できる。2～5は弥生土器甕の口縁部片。口縁端部を丸く収め、一条の突帯をめぐらす突帯文系譜のもの（2～5）と口縁端部を方形に面取りするもの（6～8）がある。4は磨滅の為不明瞭であるが口縁端部に刻目が確認できる。また、3・5は刻目が深いため口縁端部が波打つ形状となる。6は内面にミガキが明瞭に確認できる。9は弥生土器鉢の口縁部片。10は完形で出土した弥生土器小型甕。口径11.0cm、器高10.6cm、底径6.1cmを測る。全面磨滅のため調整は不明瞭であるが、口縁端部に刻目が存在した可能性がある。また、内面には工具痕が確認できる。11～14は弥生土器壺の口縁部片。11は口縁部内面に断面三角形の突帯をもつもので、外面にも一条の突帯をめぐらす。外面突帯の上部には内面突帯を貼付ける際の指頭痕が明瞭に残る。磨滅のため調整不明瞭であるが、内面には横方向のミガキが確認できる。12は頸部が長く肩の張らない突帯文土器系譜の甕か。13・14は口縁端部を強く屈曲させ、14は方形に面取りを行う。15～17は弥生土器甕の底部片。磨滅

SX009 黑褐色土 (上層)

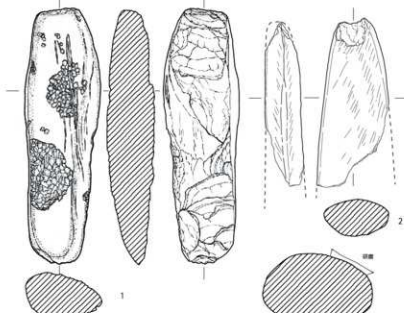


SX009 灰褐色土 (下層)

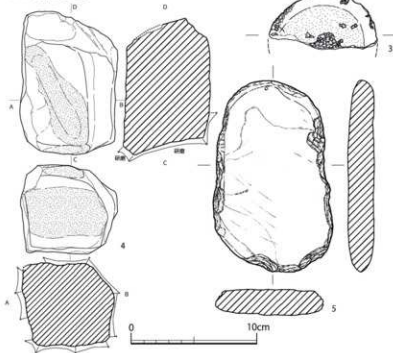


第41圖 SX009出土遺物実測図① (1/4)

## SX009 黒褐色土



## SX009 灰褐色土



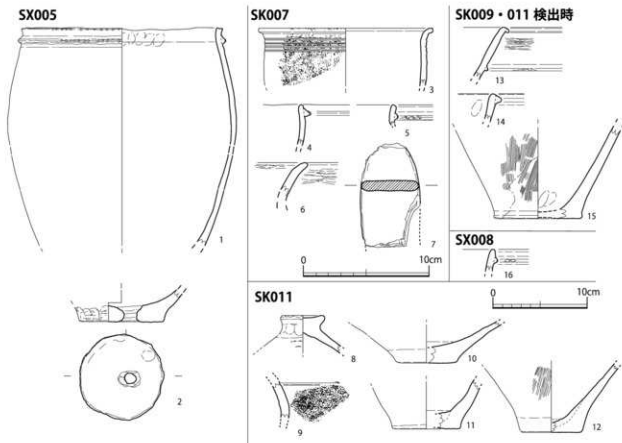
第42図 SX009 出土遺物実測図 (1/3)

により調整不明瞭だが、底部の裾部は指オサエが明瞭に残る。15はハケ目、17はミガキが確認できる。18～20は弥生土器壺の底部片。18・19は底部の裾部は指オサエが明瞭に残り、18は内面にミガキ、19は外面にミガキが確認できる。底部は上げ底気味となる。20は底径の小さいものでややレンズ底状になる。内面にはミガキが確認できる。底径6.8cmを測る。21は弥生土器鉢の底部片。外面にミガキが確認できる。底径5.5cmを測る。

## SX009 灰褐色土（下層）出土遺物（第41図22～50）

22～31は弥生土器甕の口縁部片。黒褐色土出土遺物同様、口縁端部を丸く収めるもの（22～25）と口縁端部を方形に面取りするもの（26～31）がある。24は磨滅が著しく不明瞭であるが、それぞれ一条の刻目突帯をもつ。22は突帯部分の刻目は他の甕と比較して深く幅も広い、また、口縁端部の刻目により口縁部は波打っている。27は復元口径19.2cmで26と同一型式の甕であるが、体部上部に段をもつ。29と30は口縁端部を方形に強く面取りする。磨滅の為不明瞭であるが、突帯部

分には刻目が施された可能性がある。32・33は弥生土器鉢の口縁部片である。32は体部から口縁部まで直線的に延び、体部上部に突帯をもつ。外面ではハケ状の調整が確認できる。33は口縁部付近で外反するタイプの鉢で口縁部下端部に刻目突帯をもつ。第41図9や38と同一型式であるが、胎土や色調から個別体と考えられる。34～37は弥生土器甕。34は復元口径22cmを測る。口縁端部を丸く収めるもので、口縁部付近でやや内傾する。35は復元口径26cmで口縁端部を方形に面取りするもので31と同一型式の甕である。36は甕の下半部で内面・外面に縦方向、斜め方向のミガキが施される。底径8.0cmである。37は突帯文土器系の弥生土器甕。復元口径28.8cm、器高14.7cm+α。舌状口縁部の下部に不規則な細く浅い刻目を施す。体部の屈曲部分も断面三角形の



第43図 その他の遺構出土遺物実測図 (1/4) 7は (1/3)

突帯をめぐらし口縁部の突帯同様、不規則な細く浅い刻目を施す。磨滅の為内面を中心に調整不明瞭であるが、外面には横方向のミガキが確認できる。色調は橙赤色で、胎土には緑泥片岩が多量に含まれる。この型式の甕はこの1点のみの出土である。38は弥生土器鉢である。39～42は弥生土器壺の口縁部や体部片である。39は肩の張らない頸部の長いタイプの壺。磨滅が著しく調整は不明である。40は壺の体部片で、重弧文を施す。41・42は頸部付近の破片で、頸部接合時の粘土紐の段が明瞭に残る。43～46は弥生土器甕の底部片。外面には縦方向のハケ目が、内面にはミガキが確認できる。47～50は弥生土器壺の底部片。48は復元底径9.8cm、断面から接合ラインが観察できる。47・49はやや上げ底気味である。底径8.3cm、8.8cmを測る。50は底径6.8cmと小さいく、ややレンズ底となる。

**SX009出土遺物(石器)(第42図1～5)** 1～3は黒褐色土から出土した石器。1は蛇紋岩製の敲石で側面に2ヶ所、密な敲打痕が確認できる。重量695g。2は緑泥片岩製の石斧。いわゆる縄文系の石斧である。刃部を欠損する。重量290g。3は安山岩製の円形の敲石。重量270g。4・5は灰褐色土から出土した石器。4は砂岩製の砥石で、5～6面の砥面が形成されている。岩質はややキメが荒く荒砥石として用いられたか。重量58.11g。5は緑泥片岩製の打製石器。両側面にやや深い挟りがある。下部は使用によるものか擦痕が確認できる。石垂にしては挟りが浅いので、挟り部分を持ち手とする石器か。重量580g。

**SX005出土遺物(第43図1～2)** 1は口縁端部を方形に面とりするタイプの弥生土器甕で、復元口径21.2cm、器高23.1cm+αを測る。土器全体がやや歪んでおり、口縁部はゆるく波打った形状となる。磨滅の為、調整は不明である。色調は黄灰色である。2は底部中央に穿孔をもつ弥生土器壺の底部片。底径8.75cm。穿孔は外面より行われている。

**SK007出土遺物(第43図3～7)** 3は弥生土器甕で、外反して方形気味に取める口縁部直下に四条の凹線を施す。外面調整はタテハケ調整である。復元口径18.5cm。いわゆる西部瀬戸内系の弥生土器である。4・5は

弥生土器製の口縁部片。4は磨滅のため不明瞭であるが突帯には刻目を施した可能性がある。6は弥生土器壺の口縁端部片。端部はやや尖り気味に取める。内外面ともミガキを施す。7は緑泥片岩製の扁平な石材。加工痕は明確には確認できないが、上部が丸味をもつ。類似した石材がSD010から2点出土している。重量58.11g。

SK011出土遺物(第43図8～12) 8は弥生土器蓋。外面にタキ状の調整痕が確認できる。9は弥生土器壺の体部片で、外面に木の葉文が描かれる。10は弥生土器壺の底部。SX009黒褐色土より出土した壺(第41図20)と同一型式のもので、復元底径6.2cmである。11・12は弥生土器製の底部片。11は復元底形7.0cm。12は復元底径6.4cmとなる。外面はタテハケ調整である。

SX009・011検出時出土遺物(第43図13～15) SX009・011検出時に出土した、どちらの遺構にも帰属できない遺物群である。13は弥生土器鉢。口縁端部と体部に小ぶりの突帯をもつ。14は口縁端部に突帯をもつ弥生土器壺。15は弥生土器製の体部から底部の破片。復元底径9.3cmである。外面は丁寧なタテハケを施す。

SX008出土遺物(第43図16) 16は弥生土器口縁部片。口縁端部を丸く収めるタイプで、刻目突帯をもつ。

※なお、出土した弥生土器全てにおいて坂ノ市～佐賀関一円で露頭している緑泥片岩の破片が多量に含まれることから、これらの土器は調査地点の近隣で製作されたものと考えられる。

### 3. まとめ

① SX009の帰属時期について SX009からは弥生時代前期の多量の弥生土器や石器類が出土した。大分市内における弥生時代前期の遺物・遺構は従来希少であったが、佐賀関地区においては初の事例となる。近年、市域全体の中では当該期の資料はわずかながら増加しており、現在大分での弥生時代早期～前期の土器様相は、下黒野式(夜白式併行期)→一方平式(板付Ⅰ式併行期)→上七曾子式(板付ⅡA式併行期)→下志村式(板付ⅡB式併行期)という変遷及び併行関係が提示されている(井口あけみ2003「上七曾子遺跡2号溝(SD02)出土の弥生土器について」「古国府遺跡群・上七曾子遺跡」大分市教育委員会など)。SX009は、調査所見から上層・下層とて堆積環境が異なる遺構である。遺構の性格は不明であるが、遺物を詳細にみると突帯文系の弥生土器製(第41図37)は下層の「灰褐色土」より、内面に突帯をもつ壺(第41図11)や蓋(第41図1)は上層の「黒褐色土」で出土しており、上・下層で新相・古相を示す。ただし、上層一括・下層一括などとして明瞭に区分できるほど土器の一括性が見込めるわけではなく編年成果に照らせば上七曾子式～下志村式までの若干の幅を持つことが想定される。上層～下層にかけての土器様相が暫時的であることからみて遺構の埋没過程時期に幅があった可能性が高い。なお、第41図のような口縁部端部を丸く収め、この下部に一条の突帯をもつ壺が上層・下層とも安定的に出土していることから下志村式すなわち板付ⅡB期が主体のようである。したがって、今回の出土遺物の様相は上七曾子式～下志村式の間を埋める遺物群であるが、前後の幅を持つものと考えられる。

② 遺構の時期について 今回の調査では、遺物が出土していない遺構が多く帰属時期を明らかにしないものが多い。しかしながら、遺構検出時や表土掘削時も含めて弥生時代前期の遺物以外は出土していない他、SX008のようにピットからも弥生前期の遺物が出土するように報告した遺構はほぼ同時期の遺構と考えられる。なお、遺構の分布をみると、SD010を切って掘削されたSK007からは弥生前期後葉頃(板付ⅡC期併行期か)と考えられる西部瀬戸内系の弥生土器製片が出土しており、SD010がSX009に近接した時期の遺構である可能性が高い。よって、出土土器からみてSX009やSK011、SX005がSD010とした溝を伴って併存していた可能性が高いと考えられる。本調査地点は、馬場条里跡として周知された低地部のうち西側の丘陵に近い場所に位置している。海岸平野の浜堤上ではなく、後背湿地周縁部あるいは堆積物で埋積した後背湿地にあたる場所と思われる。おそらく、西側の低丘陵上に集落の中心部があると思われ、今回検出された遺構群は居住空間とは異なる集落の端に近い部分と考えられよう。旧佐賀関町域で大分市教育委員会が実施する初の発掘調査となったが、周辺低地にも遺構の広がりが予想されることから周辺での開発行為には注意していく必要がある。

なお、SX009出土遺物の評価や時期については、小田富土雄先生(福岡大学名誉教授)・武末純一先生(福岡大学)・坪根伸也氏(大分市教育委員会)よりご教示をえた。(長直信)



第44図 SD010・SX005・SK007 検出状況（西から）



第45図 SX005 遺物出土状況（東から）



第46図 SX009 遺物出土状況（東から）



第47図 SX009 堆積状況（北西から）



第48図 調査風景（東から）



第49図 SX009 出土突帯文系弥生土器甕（第41図37）



第50図 出土遺物（キャプションは図番号を示す）



第51図 SX009 出土土器（第41図19）底部にみられる筋痕

## 第4章 平成22年度の教育普及活動

①**大友氏遺跡フェスタ 2010** 大友氏ゆかりの史跡を巡る「大友府内旧跡めぐり」、大友氏館跡等の発掘現場での遺跡説明会、「大友」に関連するまちづくり、ものづくり、史跡公園の利用方法等について市民と意見交換を行うシンポジウムを開催した。

「大友府内旧跡めぐり」

【日 時】 10月2日(土) 午前9時30分～正午

【場 所】 大友氏遺跡体験学習館 【参加者】 58名

【内 容】 今も残る大友氏にゆかりのある場所や大友氏館跡の発掘現場などをボランティアガイドと文化財課職員が解説を行いながら案内した。

「大友氏遺跡現地説明会」

【日 時】 10月3日(日) 午前9時30分～10時40分

【場 所】 大友氏館跡 【参加者】 180名

【内 容】 発掘調査中の大友氏館跡の状況や発掘された品々を公開するとともに、現在までの調査成果を担当者が分かり易く解説した。

「大友氏遺跡シンポジウム」「みんなで語ろう 大友氏遺跡とまちづくり」

【日 時】 10月3日(日) 午後1時00分～午後4時00分

【場 所】 大分銀行赤レンガ館 2F 大ホール 【参加者】 68名

【内 容】 今回の大友氏遺跡フェスタでは、大友氏遺跡の将来像に焦点をあてて行っていく。今回は大分の地域遺産＝「大友」とし、様々な人たちに大分・大友の魅力を語ってもらおう。また、「大友」に関連するまちづくり、ものづくり、史跡公園の利用方法について意見交換を行った。

②**大分市文化財たより 2010 年度号の発行** 刊行日：平成23年3月18日

2010年度号は大分市内に残る「石橋」をテーマにした。現在、市内には30基以上の石橋が存在している。石橋は、長い間、地域を繋ぐ橋として日常生活に欠かせないものであった。その中には建造年代や石工名が判明しているものがあり、現在に伝えられている。しかし近年では、舗装された路面の下や生い茂った草木に隠され、また、新しく橋が架けられたことで撤去されるなど人々の目から次第に遠ざかっているようである。今回は、ひっそりと佇みながらそれぞれの地域をつなぐ「石橋」を紹介した。

③**大友氏遺跡体験学習館** 大友氏遺跡体験学習館は（以下、同館）は、展示解説や歴史教室に加え、各種イベントを充実させることにより、大友氏遺跡や大友氏について学習する場としての役割を担っている。同館の入館者数は、開館以来着実に増加している。特に、平成22年度の市外来館者の割合は前年度比7%増で、確実に周知されていることが分かる。開館3年目となる平成22年度は、体験工房や『南蛮かぼちゃ』苗植え祭・収穫祭、戦国武将体験など、体験学習に力を入れたことで、これまでの歴史・遺跡愛好者に加え、家族連れや小・中学生の友人同士というような新しい来客層を生み出すことができた。



第52図 「大友氏遺跡シンポジウム」



第53図 大友氏遺跡現地説明会



第54図 『南蛮かぼちゃ』苗植え祭

## 【主なイベント】

企画展「武具の歴史をたどる」平成22年4月28日～5月30日【来館者】965名

＜概要＞ 弥生時代から江戸時代までの甲冑や鉄砲の歴史を模型やパネルを用いて紹介や大友氏ゆかりの南蛮丸江戸時代に作られた火縄銃の展示。

『南蛮かぼちゃ』苗植え祭・収穫祭 平成22年5月23日・9月19日

【参加者】苗植え祭 33名 収穫祭 27名

＜概要＞ 戦国時代から伝わる「南蛮かぼちゃ」の育てることで、「食」と「歴史文化」を学ぶ。

『火縄銃に触れよう』平成22年10月17日【来館者】155名

＜概要＞ 豊後大友宗麟鉄砲隊による火縄銃の実演、甲冑を身に付け本物の火縄銃を持ち、戦国時代の雰囲気を感じさせる。

④大友氏遺跡PR活動 in 大分空港 平成23年2月21日～3月21日、大分空港ターミナル内において、大友氏遺跡及び大友氏遺跡体験学習館の広報活動として、大友氏遺跡や大友宗麟について解説したパネル展示を実施した。

⑤大友氏遺跡ボランティアの募集 大友氏遺跡の保存整備について、市民が計画段階から深く関わる仕組みと組織づくり、さらに、今後の大友氏遺跡の保護や管理、運営について協働できる市民ボランティアの育成を目的として募集を行った。

9月の第1次募集では、80名以上の応募があった。9月18日の第1回目の例会では文化財課から大友氏遺跡事業及び募集の経緯等の説明を行い、会の代表者3名を決定した。その後、2次募集が終了した段階で100名を超える団体となった。平成23年1月に「おおいた応援隊 大友歴史保存会」として正式発足し、活動を始めている。

⑥「家市楽座 大おもて会」の開催 大友宗麟の時代の儀礼である「大おもて」を現代風に構成を置き換え、大友氏遺跡の周知と当時のような賑わいを創出する目的で、ボランティアグループ「大友歴史保存会」が主体となり開催した。

【主 催】おおいた応援隊 大友歴史保存会 後援：大分市教育委員会

【開催日時】2011年2月27日（日）午前9時～午後3時

【開催場所】大友氏遺跡多目的広場（旧万寿寺跡）【来客者】約1500人

⑦遺跡説明会 府内城・城下町跡第19次（荷揚町小学校）調査地は府内城三ノ丸に所在し、府内藩の要職を務めた「上原氏」「手嶋氏」が居住場所がある。今回、建物跡や井戸跡など当時の武家屋敷が良好に見えられたため、地域の方々を対象として現地で遺跡説明会を開催した。

【開催日時】2011年1月30日（日）【発掘場所】大分市立荷揚町小学校【参加者数】120人



第55図 「火縄銃に触れよう」



第56図 大分空港ターミナルでパネル展示



第57図 府内城・城下町跡第19次現地説明会



[illegible]

[illegible]

博多 134・135・136・137・138・139・140

今宿 510(2) / 香川・香川47・88 / 飯付 10 / 入部 13

佐賀藩跡 大隈道跡7 / 寺尾道跡3 / 廣田木元道跡2

廣田木元道跡 14 / コロ道跡3 4 / 山伏 2 / 西蔵山道跡1

川島崎 / 松ノ下イシ2 / 飯付16 / 野寺大森 2 / 草場古道跡2

市道「山崎山」工事に伴う発掘調査報告書 2 / 糸島道跡3

郡岡6・67 / 船崎 39・40・41 / 羽後戸道跡1 / 比嘉 37・38・39

ヒツツ道跡1 / 郡岡道跡 5 / 矢野道跡7 / 元岡・糸島道跡群16・17

## 福岡市博物館

平成14年度収蔵品 収蔵品目録24

福岡市博物館研究紀要 第19号 / 年報 第16号 (平成19年度)

## 福岡県教育委員会

福岡県立歴史資料館 / 九洲府庁跡遺跡群 3 / 本吉道跡 / 竹巻道跡3

飯付山古墳群石室道跡 / 藤の尾川遺跡群・糸島道跡2・笠置道跡

特別史跡「福岡県立歴史資料館」上巻・下巻 / 山門ノラン道跡 / 山門中島道跡

福岡市博物館研究紀要 第19号 / 年報 第16号 (平成19年度)

## 北九州市教育委員会

北九州市立歴史資料館

福岡県立歴史資料館

福岡県立歴史資料館

福岡県立歴史資料館

福岡県立歴史資料館

福岡県立歴史資料館

福岡県立歴史資料館

福岡県立歴史資料館

福岡県立歴史資料館

福岡県立歴史資料館

福岡県立歴史資料館

福岡県立歴史資料館

福岡県立歴史資料館

福岡県立歴史資料館

福岡県立歴史資料館

福岡県立歴史資料館

福岡県立歴史資料館

福岡県立歴史資料館

福岡県立歴史資料館

福岡県立歴史資料館

福岡県立歴史資料館

福岡県立歴史資料館

福岡県立歴史資料館

福岡県立歴史資料館

福岡県立歴史資料館

福岡県立歴史資料館

福岡県立歴史資料館

福岡県立歴史資料館

福岡県立歴史資料館

福岡県立歴史資料館

福岡県立歴史資料館

福岡県立歴史資料館

福岡県立歴史資料館

福岡県立歴史資料館

福岡県立歴史資料館

福岡県立歴史資料館

福岡県立歴史資料館

福岡県立歴史資料館

福岡県立歴史資料館

福岡県立歴史資料館

福岡県立歴史資料館

福岡県立歴史資料館

福岡県立歴史資料館

福岡県立歴史資料館

福岡県立歴史資料館

福岡県立歴史資料館

福岡県立歴史資料館

福岡県立歴史資料館

福岡県立歴史資料館

福岡県立歴史資料館

福岡県立歴史資料館

福岡県立歴史資料館

福岡県立歴史資料館

福岡県立歴史資料館

福岡県立歴史資料館

福岡県立歴史資料館

福岡県立歴史資料館

福岡県立歴史資料館

福岡県立歴史資料館

福岡県立歴史資料館

福岡県立歴史資料館

福岡県立歴史資料館

福岡県立歴史資料館

9号道跡第3地点 (220号調査) / 島崎道跡11 (38・280) / 長島道跡第2地点3 / 山田道跡

伊勢道跡 44区・105 / 飯見道跡 / 日田道跡第2地点 / 坂町道跡第11地点

長野小川道跡3 / 長野見尾道跡第2地点 (A・B・10) / 茨野イイトウ道跡 第2調査

小倉城二ノ丸跡第4地点2・3 / 小倉城三ノ丸跡第2地点 / 館行道跡第3地点 / 牛村道跡

川崎町教育委員会

山田山古墳1号墳

星野町教育委員会

星野道跡・下小野道跡

## 福岡県立歴史資料館

大分県立歴史資料館 (1) — 大分市市民会館 — (2) — 大分市市民会館 —

飯塚市教育委員会

飯塚市内埋蔵文化財調査・確認調査報告書 (1)

飯塚市教育委員会

飯塚市立歴史資料館 / 飯塚道跡 / 立野寺地区道跡・C地点 第1次発掘調査・

太宰府市道跡 第129号 第144号 第146号 第148号 第149号

福岡県教育委員会

小倉市教育委員会

大野城町教育委員会

大野城町教育委員会

大野城町教育委員会

大野城町教育委員会

大野城町教育委員会

大野城町教育委員会

大野城町教育委員会

大野城町教育委員会

大野城町教育委員会

大野城町教育委員会

大野城町教育委員会

大野城町教育委員会

大野城町教育委員会

大野城町教育委員会

大野城町教育委員会

大野城町教育委員会

大野城町教育委員会

大野城町教育委員会

大野城町教育委員会

大野城町教育委員会

大野城町教育委員会

大野城町教育委員会

大野城町教育委員会

大野城町教育委員会

大野城町教育委員会

大野城町教育委員会

大野城町教育委員会

大野城町教育委員会

大野城町教育委員会

大野城町教育委員会

大野城町教育委員会

大野城町教育委員会

大野城町教育委員会

大野城町教育委員会

大野城町教育委員会

大野城町教育委員会

大野城町教育委員会

大野城町教育委員会

大野城町教育委員会

大野城町教育委員会

大野城町教育委員会

大野城町教育委員会

大野城町教育委員会

大野城町教育委員会

大野城町教育委員会

大野城町教育委員会

大野城町教育委員会

大野城町教育委員会

大野城町教育委員会

大野城町教育委員会

大野城町教育委員会

大野城町教育委員会

大野城町教育委員会

大野城町教育委員会

大野城町教育委員会

大野城町教育委員会

大野城町教育委員会

大野城町教育委員会

大野城町教育委員会

大野城町教育委員会

大野城町教育委員会

大野城町教育委員会

大野城町教育委員会

|      |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                           |                                                                                                                                                                                                                                                                       |
|------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
|      | 歴史公園動物智城跡・遺跡創生館<br>輪智遺跡一帯(三次調査報告一)                                                                                                                                                                                                                                                                                                        | 益城町教育委員会<br>小瀬遺跡                                                                                                                                                                                                                                                      |
|      | 八代市教育委員会<br>西片組遺跡                                                                                                                                                                                                                                                                                                                         | 城南町教育委員会<br>新史料による天宮・島原の乱                                                                                                                                                                                                                                             |
| 大分県  | 大分県埋蔵文化財センター<br>丹生遺跡群 (第14地区) / 上野遺跡群一(矢野坂地区)<br>大分県内遺跡発掘調査報告第13 / 大分県埋蔵文化財年報18<br>古墳からみた東景の国<br>大分県先哲史料館<br>資料研究紀要 35号<br>大分県文書館<br>植物鑑賞 Ⅱ / V / VI<br>大分県立歴史博物館<br>研究紀要 11<br>日杆市教育委員会<br>室野遺跡 / 日杆城<br>筑前町教育委員会<br>豊後森城下町                                                                                                              | 大分市歴史資料館<br>豊人たちの生活—2016年の月報—<br>坂 / 市地区課土史史考会<br>白木部 (あま) 公園第27号<br>佐賀関町教育委員会<br>古代のロマン「海防の関」を語る<br>九重町教育委員会<br>打野千有遺跡群 / 九重町歴史資料館年報<br>佐伯市教育委員会<br>梅平丸遺跡 / 佐伯城下町遺跡<br>中津市教育委員会<br>中津城跡1 / 大野遺跡<br>加久田遺跡 / 市内遺跡発掘調査報告第3                                              |
| 宮崎県  | 宮崎県埋蔵文化財センター<br>御前1遺跡 (五次調査) / 前の山村上遺跡 (二次、三次調査)<br>尾花八遺跡Ⅱ 本文編 / 解説編 / 写真図録編<br>宮崎県立西郷南洲考古博物館<br>宮崎県立西郷南洲考古博物館 研究紀要 第4号<br>宮崎県立西郷南洲考古博物館年報 2009 (平成21) 年度<br>大仏に刻まれた文化史 / 東アジアの石器<br>西郷南洲100年展 (遺物編) 西郷南洲170年展 (遺物編)                                                                                                                      | 西部市教育委員会<br>都於郡城跡発掘調査報告書<br>日南市教育委員会<br>平成21年度 日南市内遺跡発掘調査報告書<br>小林市教育委員会<br>山ノ内遺跡 / 市内内遺跡発掘調査報告書—平成21 (2009) 年度—<br>新富町教育委員会<br>上瀬遺跡1地区 / 市内遺跡28 / 福岡宮古遺跡 13                                                                                                          |
|      | 宮崎県教育委員会<br>下北方原第1遺跡 / 史跡・御前城跡<br>生田古墳群1 / 史跡生田古墳群大野原報告書<br>延岡市教育委員会<br>東田遺跡 (第一次)・北久保山遺跡 (第二次)<br>市内遺跡 平成21年度市内遺跡発掘調査事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書                                                                                                                                                                                                   | 都城市教育委員会<br>都城市内遺跡 3 / ユニタ遺跡<br>二木遺跡 / 池之上遺跡<br>日内小字遺跡 / 永井藤左遺跡<br>王子遺跡 上段久遺跡 / 都城市内遺跡 4<br>えびの市教育委員会<br>下瀬遺跡                                                                                                                                                         |
| 鹿児島県 | 伊仙町教育委員会<br>川崎山遺跡 / 市街地トナール遺跡 / 鹿児島県の重要遺跡の保存・活用に向けて<br>鹿児島県立埋蔵文化財センター<br>瓦 / 土遺跡 市街地トナール<br>瓦・土遺跡 (南さつま市)<br>土野遺跡1 縄文時代前期編 / 瓦野遺跡1 (南さつま市金峰町)<br>土野遺跡4【第1分冊】 / 【第2分冊】 (南さつま市金峰町)<br>羽田遺跡 徳山遺跡 西原第1遺跡 (皆於市大瀬町)<br>史跡遺跡・埋蔵文化財 (皆於市大瀬町) 第1分冊・第2分冊・第3分冊・第4分冊・第5分冊<br>知市木城遺跡 瓦 / 木遺跡 徳山遺跡 野方郡民道遺跡A地点 (皆於市大瀬町)<br>新堀遺跡 (ふくさ市大野村) 第1分冊・第2分冊・第3分冊 | 鹿児島市教育委員会<br>武蔵野1号点 / 北瀬遺跡下地点<br>鹿児島市教育委員会<br>大宮町1号点—西原第一— / 中瀬木遺跡<br>鹿児島大学埋蔵文化財調査室<br>鹿児島大学埋蔵文化財調査室<br>鹿児島大学考古学研究室 埋蔵文化財調査報告書<br>鹿児島県立大学考古学ミュージアム<br>鹿児島県立大学考古学ミュージアム調査報告書 第1集<br>天城町教育委員会<br>南瀬遺跡 (3)<br>指宿市教育委員会<br>新瀬遺跡・大瀬原遺跡・山王遺跡・徳山遺跡 / 鹿児島県第1<br>武田河内遺跡発掘調査報告書 |
| 沖縄県  | 沖縄県立博物館・美術館<br>ハナゲダグー遺跡発掘調査報告書                                                                                                                                                                                                                                                                                                            |                                                                                                                                                                                                                                                                       |

## 大分市埋蔵文化財調査概要2011 平成22年度

平成23年12月28日

編集・発行

大分市教育委員会文化財課

大分市街堀町2番31号

〒870-0435 (097)534-6111